

2021 年度
社会福祉法人 空心福社会
事業報告書

2022.5.1 発行

<法人理念>

「かたよらない心 こだわらない心 とらわれない心」

<福祉サービス方針>

社会福祉法人 空心福祉会は「かたよらない心 こだわらない心 とらわれない心」を法人理念とし、地域社会に対し安心・安全と満足感のある福祉サービス提供を行う。

<基本方針>

超高齢社会の到来に対し、我が法人においては、既存事業の機能強化と特質化を図り、ニーズの多様化に対応するサービスを包括的に展開する。また、地域への働きかけを重視し、各サービス拠点が地域福祉の中心的役割を果たす。

<年度重点取組課題>

- ・ 中長期計画「未来 Vision」の実現に向け、更に利用者ニーズと地域ニーズを敏感に反映した多様なサービス展開が必要であり、各施設がそれぞれの地域福祉の拠点として個々の特性を活かし、その役割を果たしていけるよう取り組む。

<評価>

人材不足解消を目指し、特養えるむの全床稼働を再開することができ、地域福祉の拠点としての役割を果たすための動きに繋がった。次の課題としては晴風の全床稼働計画を目指し、地域福祉の拠点として求められる役割を果たしていけるよう取り組んでいかなければならない。

- ・ 法人本部は財務管理、労務管理等の役割を適正化し、組織体制をより盤石たるものとする為に、各事業所の円滑な事業展開のバックアップ体制を整える。また、更なる業務効率化を推進し、ワーク・ライフバランスに配慮した具体的な労働環境改善を行い、福利厚生充実の充実を探求し魅力ある職場環境作りを展開していく。

<評価>

会計ソフトを確実に活用し適正な財務管理を行えた。福利厚生充実の一環として実施しているリフレッシュ休暇の取得率は、2019年度80.4%、2020年度83.7%、今年度は97.7%となりほぼ取得することができた。人材不足の厳しさはあるが、100%を目指して工夫する必要がある

- ・ 円滑な運営を支える人材確保のため、幅広い求人活動、ホームページ・SNS等様々な手法を活用したPR活動を展開し、人材確保を推進する。特に人材不足による経営への影響が増大する中、法人構成員による英知と努力による人材確保を戦略的にすすめ、経営の安定化を図る。

<評価>

ホームページ、SNS、FM、福知山駅コンコース内掲示等を引き続き活用し、情報公開委員会、PR部会の活動からPRビデオ作成に着手した。SNSについても、新たに、Instagram

を活用し、PR 強化を進めている。人材確保が困難な状況は継続しているが、外国人特定技能の入職を中心に、少しずつ確保が進んでいる。晴風の人材不足解消の一手として、職員寮を建設、次年度から開設し更なる人員確保に努める。

- ・法人オリジナル QMS をベースに円滑な事業の経営継続に努め、感染症等に敏感に対処することにより、安心・安全と共に信頼ある質の高いサービスを提供する。

<評価>

法人オリジナル QMS の活用の部分で、全体への浸透が思いのほかすすんでいない。感染症や災害発生が見られる中、業務継続計画(BCP)に着手し、もしもの時に動じることなく対応ができるよう組み立てる必要がある。

- ・新しい人事考課システムにより、職務の遂行度や業績、能力などを一定の基準で査定し、それを可視化することで人材育成に繋げる。今年度も引き続き権利擁護に力点を置きながら、職種、階層ごとに高い理想とプロ意識を持ったスタッフの育成を行う。外国人の受け入れを安定的なものとし、互いに協力しながら質の高いサービス提供ができるよう研鑽する。

<評価>

新しい人事考課システムの構築に向け、スタッフへの説明会、副リーダー以上への研修会を行い、次年度施行に向けた準備を整えた。

人材育成委員会を中心に新入スタッフ、各役職、各職種、外国人介護人材技能実習生や特定技能認定者それぞれに特化した研修体系を検討したが、COVID-19 の影響を受け十分な研修ができなかった。しかし外国人に対しては、10月から集合及び Web を活用しながら、月 2 回日本語勉強会を開催することができた。

- ・社会福祉法人として地域貢献を果たすべく、幅広い福祉相談、社会資源の活用、地域や各関係機関と連携したソーシャルワークを、地域連携支援部を中核に積極的に展開する。また、保有する設備・機能の地域開放による貢献活動を行う。

<評価>

COVID-19 の影響により、施設の設備機能の地域開放は中止せざるを得なかった。また認知症カフェについても 3 回の開催に留まった。今後も影響は継続するものの、そのことを踏まえた地域貢献活動の検討が必要である。

空心福祉会
法人本部
事業報告

総務部／事務 事業報告

<年度福祉サービス目標>

1. オリジナルテーマを含む部所別研修や、その他の研修への参加などスキルアップに努める。
(評価)

部所別研修は総務部事務会内で実施した。新型コロナウイルス感染症を考慮し、12月外部講師を依頼予定であったが中止とし、1月の総務部事務会も中止とした。1月会議内で予定していた部所別研修は2月に実施した。その他の研修は、新型コロナウイルス感染症の影響で参加が難しい中、SDS研修に1名参加できた。

- 1-①部所別研修を総務事務会で計画的に行う。(外部講師を含む)※年間活動計画参照
(評価)

以下の通り会議内で実施した。

- 21. 5.12“介護報酬改定”
- 21. 6.11“身体拘束廃止”
- 21. 7. 8“事故／苦情防止”
- 21. 8.11“高齢者虐待”
- 21. 9.10“感染症対策”
- 21.10. 8“褥瘡予防”
- 21.11.10“感染症対策”
- 22. 2.10“身体拘束廃止”

- 1-②自己研鑽の研修、講習に積極的に参加する。(SDS研修)
(評価)

研修開催が少ない中ではあるが、えるむから1名参加できた。

(財務課)

2. 正しく透明性のある会計処理及び正確な介護保険請求を行う。
(評価)

会計については大きな問題も無く、正確に処理、報告ができた。介護保険請求に関しては、加算取得できないものを請求していた。今後は、正確な請求ができるよう気を付けていく。

- 2-①毎月20日までに、伝票、元帳、試算表を作成し、末日までに理事長へ会計状況を報告する。
(評価)

毎月遅滞なく報告できた。

- 2-②請求過誤による返戻0件を目指す。(施設事務は国保処理を毎月5日までに行う)※CM過誤の返戻を除く
(評価)

1件の返戻があった。

これの木園で、介護報酬(日常生活継続支援加算2021.9-2022.1)の過誤申し立てが発生した。スタッフ体制の変更には、十分な注意が必要であった。

(人事課)

3. 多角的に求人活動を行い、人材確保に繋げる。

(評価)

コロナウイルスの影響で例年行っていた採用活動が制限されており、人材確保についても厳しい状況が続いているが、積極的に求人活動を行い31名採用することができた。

3-①大学等で行われる企業説明会に積極的に参加する。養成校、近隣の高等学校等への求人を行う。

また、西日本エリアへの学校訪問を行う。

(評価)

新型コロナウイルス感染状況を鑑み、大学等の訪問は中止し、郵送で情報を送付した。高校に関しては事前確認の上、福知山市、綾部市の高校のみ訪問し、その他は郵送した。

※郵送；大学・短大・専門高：133校 高校：26校

※訪問；高校：6校

3-②就職フェアに積極的に参加し採用に繋げる。

(評価)

年8件の就職フェア(Web含)に参加し、2名を採用した。コロナウイルスの影響でフェアの開催中止が1件、参加辞退が1件あった。

・ホームページ、SNS、求人広告、求人サイト等様々なPR活動を行う。

(評価)

ホームページの更新、新聞等への広告掲載、求人ナビ等を利用し、求人活動を行い、ホームページから2名、新聞広告から2名、求人ナビサイトから3名の応募があった。そのうち2名を採用することができた。

3-③法人ホームページの求人ページ、求人サイトを4月、7月及び随時更新し採用に繋げる。

(評価)

4月にホームページの求人ページを2021年度版に変更した。7月に高校生採用に向けて見直しを行った。その他、随時求人ページの更新を行った。

(施設事務)

4. 適切な情報を共有し、業務を円滑に進める。

(評価)

介護報酬改定に伴い、部所別研修で取り上げ改定箇所、新しい情報を確認していった。しかし、莫大な量である為、断片的な理解止まりであった。さらなる学びが必要である。

共有事項(事故・苦情報告・気付き等)は、毎月の会議で検討した。少しずつ皆が意見できる環境作りができてきており、来期も継続していく。

4-①介護報酬改定の情報を正しく理解し、正確な請求をする。

(評価)

改定に伴い情報を共有した。8/1から食費(日額)の負担限度額が変わり、「介護保険負担限度額認定証」を正確に反映した。

・加算の基礎となる資料を正確に作成する。

(評価)

基礎となる資料のスタッフ出勤確認表を毎月正確に作成、加算等の確認をしているが、日

常生活継続支援加算の返金(2021.9-2022.1)が発生した。スタッフ体制変更に伴い加算取得ができなくなっていたが、気付かず請求していた。返金対応させて頂くこととなった。事務員皆が、変更等に対応できる知識、情報収集能力を持てるようにすることが大事である。

4-②風通しの良い職場環境をつくる。

(評価)

前年度に引続き、会議内で1人ずつスピーチを行い、意見が発信しやすい環境作りをした。それにより、より良いコミュニケーションが図れ、円滑に仕事を進めていけるよう心掛けた。

4-③ご意見箱を管理し、総務事務会で確認し、法人全体へ水平展開を行う。

(評価)

以下7枚のご意見があった。

晴 風：1枚

皆様のおかげで、父も家族も、互いに穏やかに過ごすことができ感謝しています。

えるむ：6枚

面会を月に2,3回程度希望する。

“ケアコラボ”は様子がよくわかる。月初発送物“こちえるコメント”・写真送付はうれしい。

新入居者家族より、これからもよろしくお願ひします。

面会時の体調チェックシートの内容を名前と体温くらいにならないでしょうか？

送られてくるメールや写真で施設での様子が分かって安心します。どんな時も親切に対応してもらい感謝しています。

いつもお世話になり、ありがとうございます。

施設内ではどのような内容でも報告し、内容に応じ必要であれば各施設へ展開する。今年度水平展開する事案はなかったが、来期は、各施設への明確な展開方法等を考えていく必要がある。

<来年度への課題>

- ・来年度は、毎月の総務部事務会で、各施設サービスの加算が要件を満たしているか確認報告をし、内容を絞り介護報酬の勉強会をして理解を深めていく。また、業務中での気付きや疑問点を具体的に提案し、対応や処理について意見交換を行い共有できるようにする。各施設間での協力やサポート等、今以上に連携して業務を行っていくようにする。
- ・人材確保について新規確保はできているものの、退職者が多く、引き続き定着に向けた取り組みの検討が必要である。また、様々な媒体での求人活動や業界全体のPRを進める。

地域連携支援部 事業報告

＜活動実績・評価（年度目標達成度）＞

1. 「断らない姿勢」を念頭に、総合相談窓口として地域の多種多様な相談に対応し、社会資源へつなぐ。

（評価）

コロナ禍の影響を受けて、今年度も積極的な活動は行えなかったが、最低限必要な取り組みは行えた。「断らない姿勢」に対しては、対応が難しい場合には状況等の説明と他へ繋ぐことで対応できており、今後も同様の姿勢での対応を継続する。

1-①〔EC ベース〕総合相談窓口や認知症カフェ、施設の設備貸し出し等を行っていることの周知・啓発を行う。市役所パンフレット等設置コーナーへの設置、近隣自治会への回覧等で対応する。

（評価）

- ・各種チラシ（総合相談窓口・入居申込書類・施設設備貸し出し等）を挟んだパンフレットを市役所の所定場所に設置しており、居宅介護支援事業所や家族等から申込書類の取り寄せ希望がある際には、状況に応じて市役所設置コーナーを案内している。4月に5セット設置して以降、6月4セット、9月3セット、1月5セット、3月4セットを補充しており、有効に活用して頂いている。
- ・地域への回覧はできていない。コロナ禍であればこそ周知が必要であったのかもしれないが、活動範囲を考慮して、行わなかった。認知症カフェを定期的に再開できるようになれば周知と併せて回覧を行いたい。

1-②〔EC ベース〕在宅での生活に困っている方々への相談窓口として、入居申込に係る相談には、誠実かつ丁寧に対応する。

（評価）

- ・上半期は新規31件、下半期も新規31件の相談対応と3月にこれの木園施設見学希望者に対して喫茶コーナーから見学して頂く形で1件対応を行った。年間を通して約7割が家族等から、約3割弱が関係者等からの問い合わせで、都度丁寧に、親切な対応を心掛けて行った。
- ・上半期には居宅介護支援事業所や病院のMSWより抗がん剤治療中の方の入居申込や肺結核治療後の方の受入れ可否の問い合わせがあり、施設で対応できることと難しいことは状況を説明し、状態像に応じて近隣の療養型施設や老健を案内し対応した。申込後、継続的に状況確認をされる方に対しては、優先順位や待機状況等の説明を行い、都度対応した。

1-③〔日新包括〕過去1年間に受け付けた新規のケースに対し、その後の経過確認の為に1回/年の訪問、もしくは電話での聞き取り調査を実施し状況把握に努める。

（評価）

- ・過去1年間（20.12.1-21.12.31）に受け付けたケースの総数から、終結になったケース（逝去・居宅介護支援事業所へ引き継いだ等）を除くと45件あり、各スタッフで分担し聞き取り調査を実施した。連絡がとれないケースが5件あったが、その他は経過が確認できた。経過を追うことにより、利用者の状況変化に対して早期発見でき、必要に応じてサービスや専門職へ繋ぐ等の対応が行える為、来年度も継続して取り組みたい。

- 1-④〔日新包括〕各所サロン等での日新包括におけるPR、民生児童委員を通じてのアウトリーチ等を活用し、ただ待つだけの相談にならないように活動する。

(評価)

- ・上半期はサロンへの出務依頼が1件も無く、下半期に1件出務を引き受けていたものの、まん延防止等重点措置の発出に伴い中止となり、年度通して一度も出務できていない。上半期に引き続き、民生児童委員からの相談や対応依頼に対して随時の対応、対応後の経過報告は行えた。サロン等の出務は、来年度も依頼があれば積極的に請け負うこととし、民生児童委員との顔の見える関係性を心掛け、迅速な相談対応に努める。

2. 関係機関・団体等とのネットワークを形成し、地域課題の解決や改善、個々の生活課題、ニーズに対する利用者支援、有用な事業運営を行う。

(評価)

- ・各関係機関、団体等とのネットワークは、年ごとに深くなっていると感じる。特に医療関係者との連携は密にとれるようになってきた。各居宅事業所やサービス事業所とも勉強会や事例検討会を通し、顔の見える関係を構築できつつある。コロナ禍において、認知症カフェが思うように稼働できなかったこと、生活支援コーディネーターが中途退職したことは残念であったが、コーディネーターについては、市役所の第1層にフォローしていただき連携できた。

- 2-①〔ECベース〕認知症カフェは、地域ニーズに対応できるよう関係行政や近隣地域包括、市内居宅介護支援事業所、家族会（認知症の人と家族の会）等との連携を図り、取り組む。

(評価)

- ・コロナ感染状況を鑑みた結果、3回の開催に留まった。10月0名、11月5名、12月5名と来店者数は少なかったが、中止期間中には普段来店される近隣の方に様子を伺う等して継続的な関わりを持った。
- ・その他、市認知症カフェ担当者や京都認知症カフェ連絡会からセミナー案内があれば可能な範囲で参加し、情報収集や勉強を行った。また、市認知症カフェ情報交換会で意見交換等も行い、2月に認知症初期集中支援チームより対象者との来店の話を受けたが、認知症カフェは中止した為実績には繋がらなかった。今後もコンセプトを念頭に地道に活動を続けて行きたい。

- 2-②〔ECベース〕惇明地区福祉推進協議会生活支援サービスに対して可能な範囲で運営協力を行う。

(評価)

- ・コロナ禍で活動中止となって以降、7月に1年半ぶりに委員会の活動が再開された。しかし、度々のコロナ感染拡大により事業開始予定が再延期になった。今年度は、生活支援サービスの申込みから実施、実績報告までの流れを確認し、空心福祉会で担える部分と地域や行政で対応して頂く部分の協議・検討が行えた。

- 2-③〔居宅〕月初に毎月の目標稼働を掲げ、稼働状況に応じて医療機関、地域包括支援センター等の関連機関と連絡、連携を図り、新規利用者を獲得する。

(評価)

- ・医療機関、包括とは稼働状況に応じて連絡、連携を図り、新規利用に繋げることができた。

しかし、それ以上に3月は長期入院、特養入居、逝去の利用者が多かった。また、空き状況連絡し依頼しても、市内居宅支援事業所全体に空きがあり、依頼や相談等も減ってきている状況である。月初に新規確保人数を掲げることにより、新規受諾への意識は向上している。保留者（休止者等）への状態確認等の連絡、訪問等を行っているも相談、更新のみで実績に繋がっていない。今後も関連機関と連絡、連携を図り新規利用者確保に努めていきたい。

各月受諾件数

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
医療機関	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	0
包括	1	2	0	0	2	2	1	1	1	1	2	1
家族・本人、他	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	1	1
終結	1	2	0	0	2	2	3	4	0	1	3	8

2-④〔居宅〕医療ニーズの高い利用者に対し、医療・介護の連携を強化し、医療系サービスへの対応強化、入退院時における医療機関と介護サービス事業所との連携促進を図る。

(評価)

- ・看護小規模多機能への移行、認知症治療病棟退院により認知症デイケア（医療）利用調整、病院から在宅でのターミナルケア（訪問診療、訪問看護）等、介護サービス事業所との連携を図った。ターミナルケアへのマネジメントは5件あった。コロナ禍ではあったが、入退院の際の連携、調整により、また、必要に応じて、受診に付き添うことや救急搬送（6件）の対応も行った。

2-⑤〔居宅〕地域包括支援センターとの連携を強化し、困難事例に関してはその都度相談して支援する。

(評価)

- ・包括や社会福祉課へ相談し権利擁護事業の調整を図り、活用支援に1件繋げることができた。更に1件、調整中である。権利擁護事業等は状況、状態をみながら継続的に相談を行っている。ゴミ屋敷問題やペット（猫）の多頭飼いについても相談し、解決したわけではないが、保護団体の調整や介護保険サービス利用等へ繋げることができた。虐待事例関連も、その都度、連絡し相談している。

2-⑥〔居宅〕認定調査、また、入院時情報連携加算等の加算算定を確実に実施し収益に繋げる。

(評価)

- ・認定調査は更新に合わせて、区分変更等は状態に応じて行えた。入院時情報連携加算や通院時情報連携加算は確実に実施し請求できた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
認定調査	2	2	7	3	9	2	3	6	3	1	5	4
入院時情報連携加算	4	1	5	6	6	3	7	4	2	6	4	4
通院時情報連携加算	1	1	3	1	1	1	0	1	2	1	2	1

2-⑦〔日新包括〕関係機関等との連携強化や関係性構築の為、介護予防支援、介護予防ケアマネ

ジメントの質を向上する為、2回以上/年（圏域事業所・委託事業所を含む）主催勉強会を開催する。

（評価）

- ・計画通り、2回の勉強会を実施できた。コロナ禍での実施ということになったが、2回とも集合開催とした。感染対策は適切に行い、実施したことで感染等は起こっていない。

21.08.19 “地域ケア会議と困難ケース”

22.03.18 “苦情・クレームを考える”

2-⑧〔日新包括〕関係機関等との連携強化や関係性構築の為、事例検討会を2回以上/年（圏域事業所・委託事業所を含む）開催する。

（評価）

- ・計画通り、2回的事例検討会を実施できた。コロナ禍での実施ということになったが、1回をWeb開催とした。集合開催した時には感染対策は適切に行い、実施したことで感染等は起こっていない。

21.05.18 “妻の精神疾患を理解しない夫（DVあり）の支援”（Web）

21.11.18 “難病をかかえ、無保険状態で東京にて行き倒れた男性の支援”

2-⑨〔日新包括〕生活支援コーディネーターが日新圏域の福祉推進協議会と連携、地域の活動に参画・協同し情報収集を行い、住民ニーズに沿った社会資源（サロンや居場所等）を開発する。

（評価）

- ・日新のコーディネーターが9月に退職し、その後は、市役所の第1層のコーディネーターが代行となった。連携し情報共有は随時行ったが、社会資源を開発するには至っていない。
- ・成仁地区の「成仁ささえあい活動」の発足には、協力できた（上半期）。

2-⑩〔共通〕所定の月を除き、地域連携支援部会議に併せて地域清掃を行う。

（評価）

- ・年間を通して実施計画を立てていたが、9月は実施できず翌年2月へ振り替え、対応した。清掃中に地域住民から声をかけて頂くことがあり、法人のPRを併せて行った。収集するゴミの量は地域差があるものの、満遍なくゴミが落ちており、法人の地域貢献として有効な為、来年度も取り組みたい。

開催日	清掃箇所	開催日	清掃箇所
4月	東佳屋野方面	10月	西小谷ヶ丘方面
5月	水内方面	11月	聖佳町・南土野方面
6月	前田方面	12月	福知山城周辺
7月	駅南方面	1月	土師新町東方面
8月	—	2月	戸田方面
9月	中止	3月	—

3.ソーシャルワークスキルを向上させ、地域貢献に繋ぐ。

（評価）

- ・計画的に部所別研修や事例検討会、勉強会を実施し知識とスキル向上に努めた。今年度もコロナ禍の影響は大きく、法人外SDS研修はWebにて参加した。また、ボランティア活動を通し

て、地域貢献活動を行った。

3-①部所別研修を計画的に開催し、基礎知識の向上を図る。

(評価)

- ・ 計画的に実施し、基礎知識の向上を図った。
 - 21.05.08 “事故／苦情防止”
 - 21.06.12 “褥瘡予防”
 - 21.07.10 “身体拘束廃止”
 - 21.08.30 オリジナルテーマ “コミュニケーション”
 - 21.11.06 “感染症対策”
 - 21.12.11 “高齢者虐待”
 - 22.01.10 オリジナルテーマ “認知症”

3-②業務に役立つ情報収集や学びの場として、部所の会議内で6回／年、勉強会を開催する。

(評価)

- ・ 計画的に実施し、情報収集や学びの場として業務に役立てることができた。
 - 21.04.30 “虐待”
 - 21.08.07 “高齢者の口腔ケア”
 - 21.09.11 “地球温暖化”
 - 21.10.09 “コミュニケーション力を磨く”
 - 22.02.11 “貧血と低血圧”
 - 22.03.12 “成年後見等の費用と報酬”

3-③法人外の SDS 研修に積極的に参加し、実績を管理する。また、研修のフィードバック機会確保の為、部所の会議内で伝達共有研修を実施する。

(評価)

- ・ コロナ禍ではあったが、法人外の SDS 研修に Web で参加し、実績を管理した。研修のフィードバック機会確保の為、部所の会議内で伝達共有研修を実施した。

3-④事例検討会を計画的に実施した。検討希望ケースは希望がなかった為、実施しなかった。

(評価)

- ・ 事例検討会を計画的に実施した。
 - 21.06.18 “脊柱管狭窄症手術以来意欲低下で、生活がままならない独居男性の支援”
 - 21.07.27 “進行性核上性麻痺（難病）の支援”
 - 21.09.15 “認知症の妻との生活に強いストレスを抱えている夫への支援”
 - 21.10.13 “プライドの高い利用者との関り”
 - 21.12.21 “自尊心に配慮した支援とは”
 - 22.01.25 “日常生活の習慣が体調や認知面に影響を及ぼす方への関わり方”

3-⑤全スタッフが法人内外のボランティア活動の情報提供を会議等の場にて行い、積極的に参加する。

(評価)

- ・ コロナ禍の影響はあったが、全スタッフが法人内外のボランティア活動に参加できた。

＜来年度への課題＞

- ・ 福知山市の人口の推移及び高齢者の人口推移やそれに伴う介護保険申請者の数等のデータを適切に分析し、福祉サービスの必要分野の見極め等、これからの福祉業界の動向を探り適切なサービスを継続及び開発していく先導者としての部所を構築したい。
- ・ 入居申込者について、件数が減少傾向にあること（受理総件数；2019年度142件、2020年度124件、2021年度93件）や、今年度他施設への入居者が多かったことで、今後暫く新規入居にスムーズにつながる為には迅速な対応が求められると想像できる。それに伴い、入居申込書類を整備し直し、より効率・効果的に入居待機者管理が行えるよう仕組みを再構築する必要がある。
- ・ 来年度、惇明地区生活支援サービスの活動開始となれば、法人の体制等を確認しながら対応方法を検討・工夫していく必要がある。
- ・ 認知症カフェについて、来年度も感染状況を把握しつつ開催を検討し、他機関との連携を図りながら一人でも多く利用して頂けるように運営を行っていく。
- ・ 個別課題解決のためだけでなく、ネットワーク構築、地域資源開発、地域課題発見を目的とした地域ケア会議を開催したい。また、サービス事業者に限らず、地域住民や警察、民間事業者、市町村等も巻き込んだ地域ケア会議の開催に努めたい。
- ・ 在宅生活の維持，継続ができるよう包括や医療との連携強化を目指していきたい。

高齢者複合福祉施設
にれの木園
事業報告

<施設理念>

おかげ様と互いに“心”が伝わる暮らし

特別養護老人ホーム にれの木園
(にれの木園 ショートステイ)
事業報告

＜活動実績・評価（年度目標達成度）＞

1.利用者個々が安心して生活し、スタッフ個々が成長しながら、サービスの質の向上を目指す。

(評価)

利用者の服が汚れたままや、車イス等の汚れが目立つ等、確実に実施ができていない部分もあったので、利用者の身だしなみ、居室の環境整備など、業務の中に組み込んで実践できた。スタッフの成長には個人差もあるが、勉強会の実施等を通じて成長も感じられた。

1-①各スタッフのサービス提供における基本を確立する為に、支援方法の確認等実施する。

(評価)

6月より、にれの木園ケアチェックシートを開始し、ケアワーカー24名中17名実施を行った。

- ・部長、リーダー級で年2回以上（5月、11月は必ず実施）スタッフの支援方法の確認を行い、代表者会内で実施結果を共有する。支援方法の確認は入浴、排泄、食事介助、声掛けの基本的な部分のケアを確認する。

(評価)

5月の支援方法の確認はできなかったが、6月より、にれの木園ケアチェックを開始し、一部のケアワーカーに実施ができた。11月含め、下半期もケアチェック等の支援方法の確認を行ったが、代表者会内で実施結果の報告はほとんどできなかった。

- ・各種手順書を各スタッフに配布し、確実な手順のもと実施できているか個人でチェックするよう促し、必要に応じて手順書の見直しを行う。（5月、11月）

(評価)

手順書の見直しは、5月は各種手順書の配布ができておらず、実施ができなかったが、11月は、ケアラボの手順書作成を含め、手順書の見直しを実施できた。

1-②部所別研修を計画的に実施（年9回）する。※別紙年間活動計画参照

(評価)

本来の実施月と計画に沿えない研修もあった。会議内での実施では参加人数等不十分な面も見られ、業務内で研修時間を確保した結果、計画が大幅に遅れてしまったが、すべての研修を行うことができた。

※「にれの木園年間活動実績」参照

1-③各会議内でスタッフが企画した基本的なケアに関する勉強会（10分程度）を実施し、感想を共有しサービスの質の向上に努める。

(評価)

下記の通り、各会議体で勉強会を実施した。

CW会 4月 “コミュニケーションについて” 8月 “ボディメカニクス”

10月 “食事介助の基本について” 12月 “コミュニケーションについて②”

2月 “気づきのケアとは”

NS会 4月 “老衰の高齢者と家族の意思決定の意向に沿った在宅看取りができた事例”

8月 “褥瘡予防” 9月 “施設でのコロナウイルス対策” 2月 “心不全について”

- ・勉強会の内容については記録に残す。

(評価)

ケアワーカー会議，ナース会議にて，議事録に詳細を記載できた。

- 1-④新しく導入する介護記録ソフト“ケアコラボ”を活用し、写真や動画等での記録を行う事で情報を共有する。

(評価)

8/1より介護記録をケアコラボにチェック表関係から順次、移行を行った。12/1から「生活支援記録」、1/15から一部申し送り事項、2/1より介護日誌の移行を行った。レクリエーションの場面や、ポジショニング等を、ケアコラボに写真付きで残す事ができ、様子が分かりやすい記録を記載して、共有する事ができた。

- ・導入に至るまでに勉強会，個別指導を実施し、スタッフ個々が使用できるようにサポートする。

(評価)

ケアワーカーには、4月ケアワーカー会議にて動画を交えて、説明を行い、7月からは、各自、ipod 端末もしくは、PCにて、ログインと操作説明を行った。ナースには、7月ナース会にて、ログインと操作説明を行った。2月には完全移行に伴い、モニタリング方法などの確認を行った。

(ケアワーカー)

- 2.現在まで推進してきたノーリフティングケアをさらに推し進め、スタッフ全員がノーリフティングケアアイテムを使用できる事を目指す。

(評価)

スライディングシートを使用対象者の居室内に設置した。

2/14-3/9までの部所別研修にて“ノーリフティングケア”というテーマで実施し、実際に使用できないスタッフが半数いた為、実際にノーリフティングケアアイテムを使った実践的な研修を行った。また居室に設置しているスライディングシートがほとんど活用できていない事も分かった。

- 2-①日々のケアにノーリフティングケアアイテムを活用する。実施状況（活用している入居者，活用事例）を「介護日誌」に記録を残す。

(評価)

「介護日誌（夜勤）」にて、スライディングシート，ボードを活用している入居者，活用事例を記録として残せた。

- ・当日リーダーが引継ぎ時に出勤スタッフへのスライディングシートの所持確認を行う。

(評価)

上半期は、しっかりと当日リーダーが引き継ぎ時に、出勤スタッフへのスライディングシートの所持確認はできた。下半期は、所持できている事が多くなっていた事に対し、所持確認の意識は薄れており、ほとんど確認の機会は減ってしまった。

- ・夜勤帯での使用を進め、実施状況を「介護日誌」に記録する。

(評価)

「介護日誌（夜勤）」にて、実施状況を記載しており、実際に記録できた。

- ・ケアワーカー会サーキュラーに、“ノーリフティングケアアイテムの使用状況（使用者・状況）”

を明記し、話し合いの場を持つ。

(評価)

サーキュラーに明記できていない事もあったが、4月、10月のケアワーカー会議にて、話し合いの場を持つ事ができた。

2-②ノーリフティングスタンダード試験、全スタッフ合格を目指す。

(評価)

スタンダード試験は、1名合格した。筆記試験も1名合格した。

(ナース)

3.専門職の知識、技術を生かして、利用者が安心して暮らせる環境を作る。

(評価)

利用者の状態の変化に関して、他職種で連携しつつ情報交換し、安心して暮らせる環境作りができた。ポジショニングへの指導は、その都度または、ケアコラボを通して実施を行った。日ごろの勉強会での学習内容についても、施設でのコロナウイルス対策など、身の回りの事でも、情報の共有が行えた。

3-①利用者の状態維持及び向上の為、年4回以上、利用者と共に作業レクを実施する。

(評価)

上半期はなかなか実施ができていなかったが、11月より、干支のちぎり絵を実施し、また日々のケアの中での作業レクとして関わり、ナース主体でボーリング等も実施でき、年4回以上実施ができた。

・上記以外で、書のある暮らし、レク大会、外出支援等積極的に参加する。

(評価)

サークル活動“書のある暮らし”も参加し、外出の行事（紅葉狩り）では同行する事もでき、また違った一面を把握でき、安心して暮らせる環境づくりに貢献できた。

(ソーシャルワーカー)

4.他職種と連携し、地域、家族とのつながりを意識したサービス提供で成果を得る。

(評価)

地域とのつながりは、コロナ禍もあり、ほとんど実施ができなかったが、4月にお花見で外出、8月には、地域企業の協力で生け花を実施、10月には、ハロウィンの行事で、みどり保育園の園児との交流、11月には紅葉狩り、11/9-11/16には、にれの木園フォトコンテストを実施し、面会に来て頂いた家族にも、コンテストに参加して頂けた。

4-①入居者の状態、ニーズに合わせ、外出、散歩、花壇や菜園の世話等含め外気に触れる機会を増やす。(支援状況等は必ず「生活支援記録」に残す。)

(評価)

8月にゴーヤの収穫、9月にさつま芋の収穫を入居者と一緒に行った。春から夏にかけて及び、3月の暖かい日には、施設周辺の散歩へ外出する事ができ、入居者にも、季節の

・地域のイベント情報等収集し、利用者の外出ニーズを確認した上で、地域のイベントに年2回以上参加する。

(評価)

地域へのイベント参加は、コロナ禍もあり、実施はできなかった。

- ・入居者、家族と連携を深め、入居者の自宅及び自宅周辺への外出の機会を作る。相談内容やその結果を「相談記録」、「生活支援記録」に記録する。

(評価)

4月に“お花見”の行事にて、ゆらのガーデンまで外出した際、家族にも来て頂けた。10月に入居者1名と里帰りとして、綾部の実家の近くのお寺まで外出を実施。「相談記録」、「生活支援記録」にも記録できた。

- 4-②ケアプラン作成に繋がる有効な記録が残せるよう、モニタリング方法、「24シート」に関する勉強会を年1回以上、ケアワーカー会内にて実施する。

(評価)

ケアワーカー会内では、実施できなかったが、「24シート」作成にあたって、個別に記入方法を伝えた。

- ・モニタリング方法の説明の際、文書を作成し各スタッフに配布を行う。

(評価)

モニタリング方法の説明ができておらず、配布もできなかった。

[にれの木園ショートステイ]

- 5.サービス提供において、利用者、家族との連携を意識したサービス提供に努める。

(評価)

事前連絡、送迎方法含めて、家族の意向に沿うように対応ができた。利用者の状態に変化があればそれに応じて対応方法も変更し、利用希望日数の変更があれば、できるだけ家族の意向に沿うように調整できた。

- 5-①入所時の家族からの伝達事項、ケアプランの実施状況を「ショートステイ連絡帳」に記載する。

(評価)

家族からの入所時の伝達事項は、「ショートステイ連絡表」に記載ができていた。ケアプランの実施状況は、ソーシャルワーカー含め、意識しては記載ができなかった。

- 6.返却忘れの件数を前年度25%減とする。

(評価)

返却忘れについては前年度16件に対して26件あり、約60%増加する結果となった。主には衣類、義歯ケース、居室に置いておく小物類であった。入所チェックと退所チェックで差異が生じてしまうケース、各物品の名前確認が取れていないケースがあった。

- 6-①返却忘れが発生した場合、記録に残し、発生した次の日の朝ミーティングにて是正処置を検討し、スタッフ間で共有し対応を行う。

(評価)

返却忘れが発生した際、介護日誌やケアコラポには残しているが、次の日の朝ミーティングにて、是正処置ができていない時と、できていない時があった。

- ・返却忘れの物品、是正処置内容等掲示し周知を図る。

(評価)

返却忘れの把握はできているが、是正処置内容については一部掲示を行ったが、すべての是

正処置に対して周知を図れなかった。

- ・必要に応じてショートステイ各種手順書に追記し、共有した後、対応を行う。

(評価)

手順書の見直しを行い、ショートステイ各種手順書への追記の必要性はなかった。

<その他>

- ・実績：

<特養月間稼働率>

(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
率	95.0	95.0	96.0	96.2	96.9	98.5	96.4	95.5	94.8	97.1	96.9	97.2

年間稼働率は96.2%であった。12月は、退居者が続いた事と、入居受け入れの候補がなかなか見つからない事もあり、稼働率が下がった事もあったが、基本50床ベースで受け入れを行った。年間入居者21名、退居者18名であった。空床期間、平均18.5日間であった。

<SS月間稼働率>

(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
I	25.7	30.3	20.0	22.3	24.8	26.0	23.3	25.6	31.6	25.1	27.1	22.2

ショートステイ年間稼働率I 25.4%※除退所/含空床(21.4-22.2)。年間通して5床ベースでの稼働となり、空床利用時の対応や、新規利用者の受け入れ、管理表の整理など稼働率維持の為、対応を行った。

- ・救急搬送：1件

- ・行政報告(事故)：2件

：転倒による骨折2件であった。

居室内での転倒は気づき難い事が多く、今年度からセンサーマットを10台導入して、その後は、早めに気付く事も増えてきている。気付いていない事も多い為、今後も、CCの対応含めて危機感を持ちつつ、早めの対応を行うよう指導する。

- ・菜園計画

：ゴーヤ、じゃが芋、さつま芋、チューリップ、パンジー他

デイサービスの外側の菜園にて、ゴーヤやさつま芋の収穫を入居者と一緒に行うことができた。

- ・地域イベント参加

：10/31 みどり保育園へ、ハロウィンイベントにて、仮装して訪問し、園児との交流会を実施できた。また桃映中学校の古切手の回収協力、みどり保育園への作品の寄贈等実施できた。

- ・作業レク実施

：干支の貼り絵など、季節に応じたものや“書のある暮らし”で書いた習字を掲示する事ができた。

一部のスタッフのみで関わっている面も見られる為、計画的に作成できるようにしたい。

- ・新型コロナウイルス感染症：

：1/24より新型コロナウイルス感染症罹患者が1名発生した。2/1まで自宅待機で対応し、施設内では感染が広がることはなかった。発生後、換気の励行、体温の複数回測定を行いサービス提供し、スタッフの日々の体調確認を行った。

<来年度への課題>

- ・排泄，食事，入浴等の基本的なサービスの質の向上が必要である。技術面についての勉強会，リーダー級によるケアチェックを行う事で各スタッフの業務内容について確認，指導を行う。
- ・感染症予防の為に、スタンダード・プリコーションを励行する。嘔吐処理の対応の実技についても継続して、各スタッフに指導の必要がある。

(ケアワーカー)

- ・細かな部分の気づきに、ケアワーカー間にてかなり差がある。その差を少しでも埋めていく必要がある。疑問に思う事があれば話し合えるような環境にしていく必要がある。
- ・技能実習生，特定技能のスタッフが増えている。ショートの衣類の扱いの確認や、円滑な業務を行うにあたって、連携をより密にする必要があり、相互理解が重要となってきた。少しでも成長を促せるような、指導方法の工夫が必要である。

(ナース)

- ・他職種協働の為の情報発信と共に、作業レクの実施、利用者の状況把握、機能向上に努める。

(ソーシャルワーカー)

- ・入居者との関わりを増やしていく必要がある。入居者の相談を聞き、少しでも楽しんでもらえるような事を企画し、生活の中で少しでも刺激を与えていけるように、取り組んでいきたい。
- ・自宅や自宅付近の馴染みの場所への外出についてのニーズが高まっていることから、家族と連携を取りながら自宅や自宅付近の馴染みの場所への外出について実施できないか検討する。

[にれの木園ショートステイ]

- ・返却忘れが増加しており、同じようなミスも連続して発生している。お互いが確認し合う事も減りつつあり、入所時の荷物チェック、SSの洗濯物干しにしっかりと干しているか、入浴時の洗濯物の扱いはどうか、お互いで確認をしていく必要がある。ケアワーカー会内でも、振り返る必要がある。

にれの木園デイサービスセンター 事業報告

<活動実績・評価（年度目標達成度）>

- 1.利用者の個々のニーズに沿ったケアを促進し、自立支援のケアの視点に立ち、利用者、家族の満足度の向上に繋がる安心・安全なサービスを提供する。

（評価）

午前中の個別機能訓練のメニューの充実、みんなの広場の意見に対しての対応、サービス担当者会での意見を日頃のケアに反映させる等利用者、家族の満足度向上に繋がるサービス提供ができた。部所内でも、「利用者満足度向上」に関して研修を行う等重点的に取り組めた。

- 1-①「デイサービス計画書」の個別ケアに関する内容を焦点化し作成する。

（評価）

「デイサービス計画書」の中の個別機能訓練の項目に個別ケアに関する項目を一部利用者に対して取り入れることができた。

- ・本人、家族、担当ケアマネジャーからデイサービス利用にあたっての希望、要望を確認し、「デイサービス計画書」に反映する。

（評価）

サービス担当者会での意見や要望について聞き取りを行い、入浴の方法や送迎時の対応など「デイサービス計画書」に反映させることができた。

- ・デイサービス会等で、ADL等の状態変化のある利用者の「デイサービス計画書」内容を検討し、必要に応じてプランを変更する。

（評価）

4月デイサービス会から、利用者支援内容等の項目を追加し、状態変化のある利用者に対してサービス内容を検討した。また11月デイサービス会からはサービス担当者会で話し合った内容や居宅サービス計画書の内容更新に合わせて、会議内で伝達、検討しプランに追記すべき内容について話し合いできた。

- 1-②“みんなの広場”や相談対応にて利用者、家族の意見を確認しサービスの満足度向上に繋げる。

（評価）

みんなの広場の中で聞き取り又は、意見を記載する用紙を用いて要望や意見を確認した。入浴の時間について、施設の設備面について、レクリエーションの内容についての要望、意見があった。入浴の時間、玄関の段差等の軽微な改善、コミュニケーションの面については改善を行うことができ、満足度の向上につながった。

- 2.レクリエーションと生活リハビリの充実を図り、デイサービスの魅力づくりを推進する。

（評価）

利用者個々のレクリエーションに関するニーズ把握や、レクリエーション内容を増やす事で利用者自身が内容を選択できるような環境をつくった。生活リハビリ内容をカンファレンスで評価し、企画、立案する事で利用者の満足度向上に努めた。

- 2-①レクリエーションに関するカンファレンスを毎月開催し、利用者のニーズ、希望に応じたレクリエーションを立案、実施に繋げる。

(評価)

ケアワーカー中心に、レクリエーション内容に関するカンファレンスを月1回以上実施した。
利用者のレクリエーションの反応等も評価し、立案や計画を行った。

2-②介護情報誌『月刊デイ』等を活用し、利用者個々に合う個別レクリエーション（脳トレ・塗り絵・パズル等）の支援を行う。

(評価)

利用者の個別レクリエーションの取り組みの様子や意向の聞き取りを行った。介護情報誌『月刊デイ』を活用し塗り絵、パズル、脳トレ、写経等の複数の種類から利用者を選択できる環境をつくった。

3.専門職として求められる知識、技術を高め、今後のサービス提供に必要な資質を向上する。

(評価)

研修の計画的な実施や業務内でのスタッフ個々に対する指導を通じて、専門職としての資質向上を図った。

3-①部所別研修を計画的に実施する。 ※別紙年間活動計画参照

(評価)

部所別研修を計画的に実施した。 ※別紙年間活動実績参照

3-②オリジナルテーマの部所別研修を年1回以上実施する。

(評価)

オリジナルテーマで“利用者満足度向上”をテーマに研修を行った。

研修の中で、ブレインストーミングを行い、自由に出た意見をまとめデイサービス事務室に掲示し、下半期取り組みを行った。

4.地域、関係機関との連携を図り、地域交流と地域貢献を図る。

(評価)

社会福祉協議会と連携を図ったが、コロナ禍の影響により地域貢献の機会は持てなかった。
地域の企業からのフラワーアレンジメント素材提供や、地域ボランティアとオンラインでの交流等地域交流の機会を図ることはできた。

4-①地域、関係機関と連携し、地域活動（サロン等）の応援依頼があれば積極的に請け負う

(評価)

関係機関（社会福祉協議会等）と地域の情報共有を行なったが、感染症流行により地域活動（サロン等）の中止が相次ぎ、応援依頼はなかった。ボランティアの受け入れについては1名音楽療法のオンラインでの受け入れを行う事ができた。

(その他)

・実績

(各月1日利用 Ave.)

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用平均	7.9	8.3	8.2	8.1	7.8	7.4	8.2	7.9	7.9	7.4	7.6	6.4

- ：1日平均 7.8 人 (21.4-22.3) であった。全国的な新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、利用自粛や長期入院、ADL 低下に伴う施設への入居された方等あった。利用者の新型コロナウイルス罹患者 1 名あった。
- ・車両事故：1 件
 - ：すれ違い様に相手の車が接触する車両事故があった。今回を機に、ドライブレコーダーを各送迎車両に搭載した。
- ・新型コロナウイルス感染症
 - ：1/28 に 1 名利用者で新型コロナウイルス罹患者があり、1/29-2/3 まで休止した。休止中もスタッフ、利用者に対して体調確認し、利用再開前にデイサービスホール、車両の消毒を行い 2/4 より再開した。再開後も換気の励行、体温の複数回測定を行い受け入れた。
- ・外出
 - ：感染症に配慮しながら福知山市植物園、初詣、外気浴を実施できた。
- ・サービス満足度向上の取り組み
 - ：ブレインストーミング法でデイサービスの満足度向上に必要な事を各スタッフに挙げてもらいデイサービス事務室内に掲示し、21.11 より取り組みを開始した。入浴時間の適正化、利用者との語らいの時間、にれの木園杯での個別での表彰等実施した。
- ・地域ボランティアの活用
 - ：音楽療法士の方に音楽療法及び歌のレクリエーションを実施して頂いた。ボランティアに施設まで来てもらうのは難しく、オンラインで実施をした。今後はオンラインも含めてボランティアの活用を検討したい。
- ・ケアコラボへの移行
 - ：21.9 よりケアコラボへの移行を開始し、22.1 より日誌も含めたすべての記録をケアコラボへ移行することができた。レクリエーションの内容を動画で共有、各個別機能訓練の様子を写真で残す、各種記録類から日誌への転記をなくす等、様々な良い効果が得られた。

<来年度への課題>

- ・デイサービス広報を居宅介護支援事業所、地域の関係機関等に配布し、新規利用者獲得に努める。
- ・健康面での啓発、みんなの広場での改善結果等、利用者、家族とのコミュニケーションを密にし継続してデイサービスを利用してもらえるように繋がりを強くする取り組みを行う。
- ・介護技術や、チームビルディング、利用者が楽しめる支援（レク、個別機能訓練等）のアイデアなど継続的に学習し、今後も専門的な知識、技術を磨く。
- ・「デイサービス計画書」の焦点化を行い、利用者にあった個別機能訓練の提供、本人の特性に配慮したサービス提供に努める。
- ・レクリエーションや機能訓練の内容の充実化を図り、利用者満足度の向上を図る。
- ・地域で必要とされる施設を目指し、地域の関係機関との連携、ボランティアの受け入れを進めていく。

2021 年度にれの木園年間活動実績

月	活動内容	月	活動内容
4	8:特花見(お花見弁当)※行事食 25:特レク大会	10	6:特リフレにれ(里帰り) 21:秋の運動会(運動会弁当) 26:衆議院議員不在者投票 24:特レク大会(延期) 26:衆議院議員不在者投票 27:福知山チャレンジデー2021 27:21.11.11 介護の日イベント(みどり保育園訪問) 30:D 郊外レク(三段池公園) 31:特ハロウィン
	手紙:行事食同意,施設協力金同意,「緊急連絡先/面会確認者」(再確認),新型コロナウイルスワクチン予防接種同意/サービス実施分析		手紙:来訪・面会(インフルエンザ・ノロウイルス),インフルエンザ予防接種補助申請書/年度福祉サービス目標活動実績経過報告
5	5:端午の節句料理 20:総合防災訓練(避難・通報・消火)[地震・昼間想定] 20:消防設備点検 26:特サークル活動“書のある暮らし”	11	9-16:にれの木園フォトコンテスト 8-12:D 郊外レク(福知山市植物園) 12,15:特紅葉狩り 17:総合防災訓練(避難・通報・消火)[火災・夜間想定]※消防署立合 22:特インフルエンザ予防接種
	手紙:にれ祭り案内,利用料金変更		
6	20:特レク大会 26:にれ祭り※行事食 ⇒感染症対応の為、規模縮小で実施。	12	1-25:クリスマスツリー点灯 20-25:冬至ゆず風呂 25:クリスマス会※行事食 19:特レク大会 27:特餅つき 30:お正月飾り付け 31:年越しそば
	手紙:来訪・面会(食中毒)		手紙:面会・来訪(感染症),新型コロナウイルスワクチン3回目予防接種同意
7	5-9:D にれの木園杯 7:七夕(七夕料理) 7:結核検診 8:総合防災訓練(水害シミュレーション) 28:土用の丑 21:特サークル活動“書のある暮らし”	1	1-3:おせち料理※行事食 5:特サークル活動“書のある暮らし”※書初め 7:七草粥 8:D 郊外レク(一宮神社) 13:新年会※行事食 14:どんど焼き
	手紙:ケアコロボ導入,食費変更/介護保険負担限度額認定証,介護保険負担割合証,後期高齢者医療被保険者証確認		
8	18:D フラワーアレンジメント 20,27:喫茶にれ 29:特レク大会	2	3:節分
	手紙:敬老式案内発送,ケアコロボ導入,食費変更		来期事業計画策定
9	12:敬老式典・集い※行事食 ⇒感染症対応の為、規模縮小で実施 21:お月見	3	3:ひなまつり 28:特サークル活動“書のある暮らし” 21-26::特にれの木園杯
	手紙:満足度調査発送		年度総括/文書(手順書)R

月例行事:特誕生日会, D ふれあい交流会, みんなの広場, 理美容〔きれい館〕, 散髪 Vr,〔中止〕めがね Vr, シーツ交換(天理教 Vr)

その他行事:介護サービス相談員(10回/y) ⇒感染症対応の為、中止

月例イベント食:特誕生日会, D ふれあい交流会(不定期)日消メニュー

月例業務/会議:記録 R, 体重測定(1回目:第1週, 2回目:第3週), 入居者採血, 代表者会議※但し、2月,3月は2回開催(2月末,3月末は拡大代表者会議※副L出席), 特養 CW 会議(1/2m), 特養 NS 会議, SW 会議※随時開催, 施設 Lm※随時開催, 入居選考会議, S 会, 入居者採血, 備品/監視・測定機器点検(月初めの5日間), SQI, 「にれの木園通信」発行※奇数月

実習等受入:(社会福祉士) 龍谷大学短期大学部(介護福祉士) 舞鶴 YMCA 国際専門学校(その他) 外国人技能実習

部所別研修を次のとおり開催した。

4	20:D “身体拘束廃止”	10	12:特 “褥瘡予防”
5	21:D “高齢者虐待”	11	
6	7:特 “目指せオムツフィッター”、7,8,9:特 “身体拘束廃止” 23,24:D “感染症対策～ノロウイルス～”	12	
7	21,24:D “褥瘡予防”, 21:D “利用者満足度向上”	1	
8	26:特 “事故/苦情防止” 26D “事故/苦情防止” 16-23:特 “感染症対応嘔吐下痢”	2	14・28:特 “NLケア”、19:特 “高齢者虐待”, 特 “身体拘束廃止”
9	1:D “事故・苦情防止”, 4,6:D “感染症対策～嘔吐・下痢～” 4,6:D “身体拘束廃止”	3	1-9:特 “NLケア”

にれの木園 災害対策年次報告

<活動実績・評価(年度目標達成度)>

1.目標

利用者の安全と施設の財産の保全を図り、常日頃より防火、防災の意識を高めると共に、予防活動、救助活動を実施する。

2.取組・対策

[防災]

- ・年2回の総合防災訓練(避難・通報・消火)を予定通り実施した。ただし、感染症予防の為、春の総合防災訓練に関しては、消防署の立会いを無くし、水害時シミュレーション、消火器類の取り扱い、緊急時通報の自主訓練を行った。火災の初期消火・避難指示訓練に関しては、日程を分けて全スタッフに対して実施した。秋の総合防災訓練に関しては、消防署立会いのもと、避難者の数を減らしたうえで訓練を実施した。
- ・防火管理者により消防設備自主点検及び避難経路点検ができた。
- ・春季、秋季のEMR.mailでの防災意識向上の啓発を行った。
- ・年2回消防設備業者による設備点検を実施できた。また、指摘されていた箇所について修繕も実施した。施設長、部長交代に伴い自火報の各責任者への連絡方法を確認し、変更した。

[EMR.mail]

- ・EMR.mail(スタッフ緊急連絡網)については、次の通り実施した。
 - ①各スタッフのMailアドレスの登録、変更については施設事務が管理した。グーグルアカウント内のMailアドレス登録、変更は防火管理者が実施した。
 - ②毎月1日、防火管理者がテストメールを作成、送信した。
 - ③テストメールを受信できないスタッフには、防火管理者が個別に確認、再登録した。
 - ④感染対策EMR Level発令の際は、EMR.mailを活用しタイムリーにスタッフへ状況を周知させ、啓発を行うことができた。その他、気象状況(警報・注意報)を適宜送信して、災害に対する意識を高めた。新型コロナウイルス感染症の地域感染状況も伝達できた。

[総合防災計画]

- ・甲種防火管理者の1名増員を行った。
- ・福祉避難所の開設要請はなかった。
- ・防火管理者変更に伴い、総合防災計画を見直し、施設周辺の状況を追記した。

<来年度への課題>

- ・消防署立会いの訓練に関して、事前のシミュレーションを密に行っていたため、訓練の流れそのものの把握はできていたが、訓練中のスタッフ間の声かけや、防火扉を閉める時間や避難者の誘導に関しての不備が確認された。実際の訓練に際して、個々のスタッフが状況を判断した上で、行動に移すことができるような指導も必要である。
- ・水害時シミュレーションについては、継続して実施し意識を高めていく必要がある。
- ・防災マニュアルを検討、作成し、全スタッフへ周知を図る必要がある。総合防災訓練の中に盛り込み、マニュアルに即した訓練を実施する。
- ・継続して甲種防火管理者の増員を行う。

＜年間活動実績＞

月	活動内容
4	1:消防設備の説明(新入スタッフオリエンテーション)
5	1:「総合防災計画」レビュー, 更新 20:消防設備自主点検 20:総合防災訓練(避難・通報・消火)〔地震・昼間想定〕 20:消防設備点検(指定業者)
11	1:秋季火災予防活動 EMR.m 17:消防設備点検(指定業者) 17:消防設備自主点検 17:総合防災訓練(避難・通報・消火)〔火災・夜間想定〕※消防署立会い
3	1:春季火災予防活動 EMR.m 31:「総合防災計画」レビュー

高齢者複合福祉施設

晴 風

事業報告

〈施設理念〉

地域と共に育む“豊かな”暮らし

特別養護老人ホーム 六人部晴風
(晴風 ショートステイ)
事業報告

<年度福祉サービス目標>

1. 質の高い介護を目指す。

(評価)

上半期は、入居者個々とのコミュニケーションが少なく、思いを引き出す意識も努力も低い現状であった。下半期は、入居者個々の思いを引き出し、その思いや要望を実現できるよう、意識を高く持つことができた。結果、入居者との信頼関係が生まれ、様々な気付きを得ることもできたことから、目標達成に向けた意識向上を図ることはできた。一方で、業務を優先したスタッフの対応や言動に対して、入居者からクレームを受ける事案が発生した。

人として温かく接することは勿論、コミュニケーションや寄り添うケアを通して、各職種それぞれの視点を大切に、様々な気付きを元に質の高い介護に繋げていく。

1-①入居者個々とのコミュニケーションからデマンドを汲み取り、企画し実現する。なお、入居と同時にターミナルケアが開始であることを念頭に置き、グループ内、多職種間で連携を図る。

(評価)

上半期、入居者個々とのコミュニケーションから要望を汲み取り、企画できたケースはなかった。下半期は、目標に対する意識を持ち、1つでも実現できるよう努力した結果、3件の企画や要望を実現できた。(外出・入浴・歩行)

なお、外出企画については、ターミナルケアが開始となる時期ではあったが、以前から「家に帰りたい。」という本人の要望に家族の希望も加わり、体調面への配慮と、新型コロナウイルス感染症に伴う感染対策も行い、実現できる時期を逃すことなく企画し、多職種で十分な連携を図ることで実現に至った。件数としては少ないが、目標に対する意識向上もみられたことから、目標は達成できた。

しかし、入居と同時にターミナルケアが開始であることの意識がまだまだ低い現状である為、今後も入居者個々の思いを傾聴し、多職種が関わり、実現できる時期を見極めて1つでも多くの要望を実現する。

・グループごとの一覧表を活用し、朝ミーティング、グループ会、随時検討する。

(評価)

上半期、グループごとの一覧表を元に、全職種が確認できるように、2グループ共通のデマンド一覧表を作成したが、促しの不十分さから活用には至らなかった。下半期は、一覧表の活用は一旦保留とし、まずは各グループで1つでも実現に向けて企画することを目標とし、朝ミーティング、グループ会、随時検討できた。よって目標は達成できた。

(ケアワーカー)

2. 情報共有を図りながら、入居者個々のケアや介助方法を探り、自立支援を念頭に、全体のケアの質を向上させる。

(評価)

入居者個々の生活状況の把握に努め、自立支援を念頭に置いたケアや介助方法を探り、見直す努力はできたが、迅速さに欠けることがあった。

下半期は、担当者として受け持ち入居者の日々の生活状況の把握に努め、さらに他スタッフからの気付きによる情報を共有しながら、改善すべき部分を見出し、グループ内で検討することがで

きた。また、他職種からの助言に対しても、相談しながらケア方法を見直し、実施できるようにもなってきたこと等、目標に対する意識向上もみられたことから、目標は達成できた。

2-①ケアワーカー個々が得た有用な情報をグループ内で共有する。

(評価)

日々の入居者との関わりの中で、ケアワーカー個々が得た情報は、グループ内で把握し、共有できた。

- ・担当ケアワーカーを中心に、自立支援を念頭に置いたケアの方法を探り、グループ内で共有しながらケアを行う。なお、朝ミーティング、グループ会、随時検討した内容は各グループのケア一覧表を活用し、周知を図る。

(評価)

担当ケアワーカーを中心に、朝ミーティング時、グループ会内、随時、入居者の状態変化に合わせたケア方法を見直しているも、迅速さに欠けることや、ケアワーカー個々の判断で行うこともあった。また、各グループのケア一覧表の更新が追いつかず、活用には至らなかったが、ケアラボの導入により、見直したケア方法の周知は図りやすくなった為、今後もケアラボを活用し、担当ケアワーカーを中心に、ケアの方法の周知、統一を図りながら、状態変化に迅速に対応する。

- ・ノーリフティングケアを基本とした介助方法で、丁寧かつ安全、安心できる介助を行う。なお、朝ミーティング、グループ会、随時、介助方法をケアワーカー間で確認する場を持つ。

(評価)

ノーリフティングケアを基本とした介助については、意識が低い現状である。

朝ミーティング、グループ会、随時、入居者の介助方法は検討できたが、ケアワーカー間で実際に確認する場が持てなかった。

ノーリフティングケアの実践は、入居者やケアワーカーにとって、介助時の身体への負担軽減と、皮膚トラブル回避になることの認識を持ち、実践に繋げる必要がある。

2-②スタッフのケアの質を向上させる為、部所別研修を計画的に開催する。

※別紙年間活動計画参照

(評価)

今年度計画していた研修は、新型コロナウイルス感染症の影響と、スタッフ体制が整わなかったことが理由で、延期しながら調整し実施できた。

8月オリジナルテーマ“緊急時対応”は参加人数が整わず10月に延期し、9月“感染症対策～インフルエンザ”、“褥瘡予防”は、担当者による資料作成の遅延に伴い10月に延期した。

2月“身体拘束廃止”は各グループにおける現状から、アンケートを実施した。個々が現状を振り返り、身体拘束の有無、身体拘束に値すると思われる行為の具体例の記述とした。

アンケート結果を元に、3月のグループ会ではグループの現状把握と、改善に繋げる研修とした。

年間を通し、各グループ会内で実施する研修については、資料配布による個人学習スタイルを主とし、学んだことや感想を記入して提出することで全員参加を目指した結果、回収率も高く、個々の理解度も把握することができた。さらに、現状に合わせた研修スタイルを考えて実施した結果からは、グループ会内で個々の考えや意見を交わすことができた実のある研修となった。

※「2021年度晴風年間活動実績」参照

(ナース)

3.入居者の健康管理に努め、QOLを充足させる。

(評価)

日々ナース間で状態や情報を共有できた。また、他部所とも共有できたことにより、早期受診やターミナルケアへの移行等の見極めもできた。QOLを継続することは難しいが、状態に応じたQOLの充足は図れたのではないかと考える。また、健康管理の一環として、8月から全員月1回下肢の状態をチェックすることができた。結果、必要に応じて白癬の治療等を開始するなどフットケアに力を入れ看ることができた。

3-①年2回、全棟利用者参加の“大リハレク大会”を実施する。※5月、10月に実施する。

(評価)

5/26室内にて、チーム対抗戦競技(玉いれ・風船つき)や歌体操を実施し、楽しまれた。

10/19には屋外にてゲートボールを実施し、普段車イスの入居者も立ってマレットを振り楽しまれた。

・上記以外で“唄歌いの日”を各棟月1回実施する。

(評価)

“唄歌いの日”は各棟月1回実施できた。歌が好きな人がとても多く、リクエスト曲やそれ以外の季節の曲等、随時歌集を更新し、楽しんでもらった。

それ以外に作業レクとして、数名の入居者に“残暑見舞い”と“年賀状”を家族宛に作製してもらい、郵送した。涙を流して喜ばれる家族や、折り紙が折れるとは思わなかったとびっくりされている家族もおられた。字を書く、色を塗るといった作業が難しくなっておられる入居者も多く、またその機会が少ない為、次年度は作業レクにも力を入れていく。

3-②外気浴の為に散歩を実施する。(入居者1人月1回・年7回以上実施する)

(評価)

全員に声はかけた。その上で希望された人は、目標回数を達成もしくはそれ以上に実施できた。

(5名は希望されない時が多く、目標回数を達成できなかった。)

3-③入居者全員のケア(ターミナルケア含む)について多職種で検討する為に、カンファレンスの場を最低1回は持つ。※共有事項はケア一覧表に反映する。

(評価)

状態変化時や悪化時等は必ず多職種と情報を共有し、ケアについて考えることができた。しかし、ケア一覧表に反映する事項はなかった。

3-④専門職として知識、ケア向上の為に、勉強会(外部講師)を年2回行う。

(評価)

新型コロナウイルス感染症の影響で外部講師による勉強会の実施はできなかった。検討はしたが、やはり時季的に難しいとの事であった。しかし、専門職として常に知識、ケア向上に励む必要があった。

(ソーシャルワーカー)

4.入居者のデマンドを汲み取り、その人らしい生活の実現を目指す。

(評価)

入居者個々とゆっくり関わり、要望を汲み取ることはできた。また、その人らしく過ごして頂けるよう、ソーシャルワーカーとしての視点から実現方法を考え、必要に応じて家族への説明や調整を行う等、細部まで配慮した支援も心掛けることができた。よって目標は達成できた。

4-①日々の相談ラウンドからデマンドを汲み取り、担当ケアワーカー、他職種と協働し実現する。

(評価)

相談ラウンドに限らず、日々の入居者個々との関わりの中から、要望を汲み取ることはできたが、「家に帰りたい。」「家族に会いたい。」等が多く、感染症の観点から実現することは難しかった。

しかし家族に会いたいとの要望に対して、会うことは難しいが、家族にオンライン面会を予約して頂く等の対応を行った。また、実現できた要望の1つに、かえでグループの入居者の「自宅に帰りたい。」という要望に対し、ターミナルケアが開始となる時期ではあったが、他職種との連携や家族との調整を含め、必要に応じた動きはできた。

〔晴風ショートステイ〕

5.空床を無駄なく活用する。

(評価)

年間を通して、空床を1日でも埋める為の動きができなかった。よって目標は達成できなかった。

5-①登録者の確保に努め、空床や利用キャンセルが発生した場合は、速やかに居宅介護支援事業所へ空床状況を電話連絡し、スムーズな利用に繋げる。

(評価)

年間を通して、新規登録者獲得に動けなかった。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大が深刻化する中、積極的な動きは難しかった。

<その他>

・2022年度月間稼働率

:定員70床に対し、稼働指示床数は60床であったが、現状は40床(ショートステイ空床型)での稼働となった。次年度は60床稼働に向けて早期に計画を立てつつ進める必要がある。

【月間稼働率】 ※70床 (%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
稼働率	55.8	56.9	56.5	56.6	54.8	54.0	49.3	52.3	54.8	55.0	54.0	55.3

・救急搬送：2件(特養：2件・ショートステイ：0件)

:状態の急変に対し、救急要請したケースが1件、もう1件は、早期の病院受診を勧めていたが家族都合により受診されず、結果、状態悪化に伴い救急搬送となった。

・行政報告：事故1件(骨折1件)

:自己転倒により骨折されたケースである。日々の歩行状態は不安定さが増し、未確認の内に転倒されることもあり、転倒リスクが高いことを周知しながら様子観察していた中で発生した。可能性を推測しつつ、事故を未然に防ぐ努力と取組みを継続して行う必要がある。

・物品破損

:発生件数：46件(過誤18件・事故14件・不明14件)

個人の茶碗、湯呑み、箸等の破損が目立った。(46件中26件)

スタッフの不注意による入居者の私物の破損は勿論、施設備品についても丁寧に扱うよう個々が意識する必要がある。

・晴風敬歓祭2021

:新型コロナウイルス感染症拡大の深刻化に伴い、前年度に引続き、家族の参加は中止せざるを得なかった中、入居者に喜んで頂ける内容を検討した。

今年度は、二部開催とし、第一部は晴風コミュニティホールでの賀寿のお祝いと食事会とし、第二部は屋外での開催を予定していたが、当日の天候悪化を踏まえ、早めに判断を行い、屋内での開催とした。

管理棟全体を使用し、晴風コミュニティホールでは、縁日をイメージした屋台やゲームコーナーを設置した。また家族より戴いた駄菓子が多数あり急遽、駄菓子コーナーを設置した。

第一部については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、慎重な判断が必要であったが、感染症への十分な対策を行った上での開催とした。お祝いムードを演出した中、スタッフによるバンド演奏で盛り上がり、終始和やかな雰囲気で見ることができた。

第二部では、第一部とのメリハリをつけ、祭りの雰囲気を演出した。担当者作成によるおみこしの完成度も高く、当日は威勢の良い掛け声に入居者の笑顔も溢れていた。またゲームには景品を準備し、入居者のみならず、スタッフも楽しめる企画となった。また、屋台では懐かしさもあり、特に綿菓子喜んで頂けた。

その他、管理棟廊下には、管理医師が往診時に撮影された入居者の笑顔写真や、入居者、スタッフの日頃の様子を撮影された写真で一杯となった。

また、恒例となっている顔写真入りメッセージボードについては、今年度のテーマを“絆”とし、オリンピック開催年であることも意識したデザインのボードを作成した。今年度は家族からのお祝いコメントをたくさん頂き展示したが、家族への説明が不足していたこともあり、一部の家族より、本人へ手渡しできていなかったことについて苦言を呈される結果となった。全体を通して、二部開催にすることで二度、会場へ足を運ぶことを躊躇される等、難しい面があった。スタッフにおいては、二部開催に向けての準備に追われる等、厳しさを感じたが、ボランティアや時間外での参加を含め、協力スタッフ数が確保されていたこともあり、大きなトラブルなく開催できた。

次年度は、今年度の反省を踏まえて検討し、全スタッフが協力し、入居者に喜んで頂けるように一丸となって準備し、当日を迎え、入居者、スタッフの心に残る行事にする必要がある。

・施設マニフェスト

：“いつも笑顔で接します。”

・厳しいスタッフ体制の中で気持ちに余裕がなく、入居者に対してもスタッフ間でも、笑顔で接することができなかつたと反省するスタッフもいた中、朝ミーティングで唱和することにより、意識付けになったと振り返るスタッフも多くあった。

具体的取組みとして、隔月に全スタッフ対象、投票によるスタッフの“笑顔コンテスト”を開催した。開催当初は投票意識、投票率共に低かったが、促しにより徐々に意識は高まった。

結果については、同スタッフへの投票数に偏りがあるものの、皆が納得する結果でもあるとの声が多く聞かれた。

スタッフ個々の思いを図り知ることはできないが、表彰されるスタッフを指標とする意識向上がみられる機会になればとの思いや考えから、今年度の施設マニフェストの具体的取組みとしては良い取組みであった。

・かつら棟の再稼働に向けて

：早期再開に向けた計画を立て、進めていく必要がある。

<来年度への課題>

(ケアワーカー)

・グループ内で起こる様々な事案を、リーダーを中心として、ケアワーカー個々が意見や考えを出し合い、その解決に向けてまずはグループ内で話し合うことが必要である。

また、リーダー発信が主ではなく、他ケアワーカーからの発信が増え、発信者の意見に耳を傾けながら、リーダーがグループ全体の意見としてまとめ、最善の方法を考え、迅速な対応を目指す必要がある。

- ・リーダーとして、介護現場において専門性を持ってチームケアを推進する際の役割を担い、グループをまとめる存在であることを自覚し、日々、入居者、スタッフに向き合うことで、様々な事案を解決に導く必要がある。
- ・ケア時に発生する原因不明の内出血や剥離等、発生時はその原因追究とあわせて、個々のケアの振り返りが必要であり、さらにはグループ内で互いがチェックし合える関係性を築き、丁寧なケアを心掛け、実践する必要がある。

(ナース)

- ・下肢の観察を確実に実施し、皮膚トラブル予防に努める。
- ・字を書く、色を塗る機会を定期的に持てるよう作業レクを実施する。
- ・専門職としての知識、ケア向上の為、勉強会を実施できる形にして実施する。

(ソーシャルワーカー)

- ・入居者のニーズが複雑化、多様化、高度化することが見込まれる為、的確に対応できる知識と、その方法、アイデアを持ち合わせる必要がある。
- ・入居者の要望を引き出し、コーディネートを行いつつ、その実現に向けて支援する。また、外出支援では、感染リスクと共存する社会へと移行しつつある為、確実な感染予防策を講じた上で、様々な工夫とアイデアを出し合い、他職種との協働により、1人でも多くの要望を実現する。

[晴風 ショートステイ]

- ・空床を無駄なく活用する為、居宅介護支援事業所へ空床状況を伝え、スムーズな利用に繋げる。
- ・利用時は丁寧、適切なケアや支援を行うと共に、家族や担当ケアマネジャーとも情報共有を図る。

晴風 調理
(味工房はるかぜ)
事業報告

＜活動実績・評価（年度目標達成度）＞

1.衛生管理の徹底に努め、安心して安全な美味しい食事を提供する。

（評価）業務体制により、厨房内、居住棟の清掃ができない時もあったが、体制が整っている時に清掃をし、衛生管理の意識は保ち徹底できた。

1-①各棟フードプロセッサ―とミキサーは週2回（月・木）まな板は使用後に次亜塩素酸ナトリウム液にて消毒を行う。

（評価）

業務体制により、フードプロセッサ―とミキサーの消毒は、決めた日にできない時もあったが週2回以上は実施できた。まな板は使用後の消毒を確実に行えた。

1-②ユニットキッチン清掃（毎月）、厨房大掃除（6月・12月）を行い、清潔な厨房及びユニットキッチンを維持する。

（評価）

ユニットキッチン清掃は12月、1月は行えなかった。下半期は清潔なキッチンを維持する為にも昼食提供後にこまめに掃除を実施した。厨房大掃除も計画通りに実施した。

1-③納品時、「発注の控え」と照らし合わせた検品を行い、記載事項と相違があった場合は、他の調理スタッフに確認を行う。

（評価）

「発注の控え」と照らし合わせた検品はできているが、食材の傷みを見落としがあった。今後は、意識して確実な検品をしていく。

1-④当日リーダーが記録を確実に行う。漏れがあった場合は、その都度指摘を行う。指摘後、どれだけ改善されたかを調理会内で報告をする。

（評価）

記録に対する意識が低く、4月、5月は記録漏れがあった。以降は記録の抜けがほとんどなく、記録の抜けを見つけたら指摘をし、その日のうちに記入できている。調理会内での報告について上半期はできなかったが下半期は記録漏れがなく指摘事項はなかった。

1-⑤部所別研修を実施する。※会議内で実施

（評価）

予定通り実施できた。年間活動実績参照。

1-⑥事故が発生した場合は、1週間以内には是正を立てる。立てた内容は調理スタッフ全員が把握できるようホワイトボードに貼り、確認サインをする。

（評価）

事故内容を共有し、話し合い1週間以内には是正を立てることができた。報告書をホワイトボードに貼り確認サインも行った。

2.利用者個々の体調の把握と共に、嗜好を取り入れ、楽しみにして頂ける食事を提供する。

（評価）

ケアコラボ、朝ミーティングで入居者の体調の把握に努めた。入居者との関わりから得た意向を取り入れた料理を、お楽しみメニューを中心に提供することができた。シェフの気まぐれメニューでは普段食べることのない料理を提供し喜んで頂けた。

2-①朝ミーティングで入居者の情報共有を行う。食事形態の変更があった場合は、「調理日誌」、ホワイトボードに記入し食事形態間違いがないようにする。食事提供前には調理スタッフが最終提供確認を行う。

(評価)朝ミーティングで入居者の情報共有を行い業務を行えた。最終提供確認は夕食に1人体制の際には、副食に関しては確認できた。

2-②状態に合わせた食事提供ができるよう、他部所と連携しタイムリーに食事形態を変更し、提供する。変更があった場合はホワイトボード「調理日誌」に記載する。

(評価)

食事形態の変更がある際は他部所と連携し、状態に合った食事を提供できた。その都度、記録にも残し調理内でも共有できた。

2-③月1回、“シェフの気まぐれ”として普段提供できない食事を考案し提供する。

(評価)

交代で担当をし、毎月提供することができた。

4月 シーフードリゾット、ミートテリーヌサラダ、イカ墨の粉ふき芋、スープ

5月 海鮮漬け丼、茶そば、漬物

6月 ドレス・ド・オムライス、サーモンサラダ、コーンポタージュ、フルーツパフェ

7月 醤油鶏飯、春巻、中華スープ

8月 豆腐チゲ、海鮮チヂミ、もやしナムル、小豆アイス

9月 ピザトースト、魚介のカルパッチョ、スープ、ダークチェリーのチーズケーキ

10月 タコライス、チャンプルー、スープ、マンゴーのクレームダンジュ

11月 ルーロー飯、イカ揚げ団子、切干大根スープ、ピーナッツお汁粉

12月 味噌カツ定食、すまし汁、ラングドシャ

1月 バターチキンカレー、合鴨スモークサラダ、気まぐれスープ、ココナツミルクプリン

2月 しらすと油揚げの炊き込みご飯、天ぷら、水菜と大豆のサラダ、生姜の味噌汁

3月 ロコモコ丼、気まぐれスープ、パンケーキ

2-④「みんなの広場」の意見を参考に、“お楽しみメニュー”では利用者の嗜好を取り入れた食事を提供する。

(評価)

「みんなの広場」、また各自入居者に聞き取りを行い、嗜好に合わせた食事を提供できた。

さらに感想も調理日誌とケアコラボに残せた。

2-⑤調理技術向上のため、毎食味の味見は出勤スタッフ全員で行い、意見交換を行う。また改善が必要な料理については調理実習を行う。

(評価)

出勤スタッフで毎食味見を行い、意見交換を行えた。利用者の感想、検食簿や、検食以外に注文したスタッフから出てきた意見で改善が必要な料理は調理実習を行った

3.状態把握を行い、個々に合った栄養管理を行う。

(評価)

利用者の状態把握を行う為、サービス担当者会議に積極的に参加し、CW, NSにも相談をし把握に努めた。食事摂取状況を確認し、個々にあった支援ができるようサービス担当者会議時に提案をし、他部所に相談を行った。

3-①既往歴、体調の変化を把握し、状態に合わせて食事の提供を行う。またその内容を調理スタッフに伝達する。

(評価)

アセスメントシートや、ケアコラボを活用し、把握を行った。体調不良者は食事形態の変更の対応や、摂取量低下の入居者には補食の提供を行った。内容も調理スタッフに伝達できた。

3-②ターミナルケア期には、本人の嗜好を重視した献立を作成し、最後まで食べる楽しみを持って頂く。

(評価)

ターミナルケア期には本人の嗜好を重視した献立を作成し、提供できた。

<来年度への課題>

- ・調理スタッフとして利用者との関わりをより増やし、体調、嗜好の把握をしていく。
- ・計画的に日々の清掃を行い、確実に実施することで清潔な厨房を維持する必要がある。
- ・納品時、食材の不具合がないか確実に確認する必要がある。
- ・感染症が発生した際の対応を全員が確実に行えるようにする必要がある。
- ・災害時に備え、今ある非常食で対応できるよう研修を行う必要がある。

(栄養士)

- ・入居者の栄養状態の把握に努める必要がある。
- ・最後の時まで、好きな物を中心に提要できるよう詳細な嗜好を把握する必要がある。

2021 年度晴風年間活動実績

月	活動内容	月	活動内容
4	3,5,7:花見外出 7:花見(花びら弁当)※行事食 12:花壇整備 27:あおぞらガーデン 手紙:行事食同意/利用料金変更のお知らせ/面会についてのお願い/新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に係る意向再確認について/各グループ会	10	19:大リハレク大会 ※屋外 25:あおぞらガーデン 手紙:来訪・面会(インフルエンザ・ノロウイルス)/面会についてのお願い/インフルエンザ予防接種に係る同意及び補助申請について/年度福祉サービス目標活動実績経過報告
	5:端午の節句(こいのぼり弁当) ※行事食(各グループ企画) 12,13:新型コロナワクチン接種(1回目) 19:総合防災訓練(火災・昼間想定) ※自主訓練 26:大リハレク大会 ※屋内 17:晴風菜園苗植え 手紙:利用料金変更のお知らせ/面会についてのお願い/新型コロナウイルス感染症ワクチン接種について		11
6	2,3:新型コロナワクチン接種(2回目) 手紙:来訪・面会(食中毒) /面会についてのお願い ※排泄バッグ購入 ※害虫駆除剤置き換え	12	1-24:X'mas ツリー点灯 22-26:冬至ゆず風呂 24:X'mas 会 ※行事食 27:餅つき 30:正月飾り付け 31:年越しそば 手紙:外泊・食品持込/満足度調査返送/面会についてのお願い ※害虫駆除剤置き換え
	6:結核検診 7:七夕(各グループ企画) 19:土用の丑 28:あおぞらガーデン 介護保険負担限度額認定証確認/介護保険負担割合証確認		1
8	手紙:食費変更のお知らせ /面会についてのお願い (2種)	2	3:節分(巻寿司) 4:新型コロナワクチン接種(3回目) 7-28:福祉フェスタ ※作品展 手紙:面会についてのお願い/来期事業計画策定/各グループ会/手順書レビュー
	18:晴風敬歓祭 2021 ※行事食 ※ショートステイ休業 23:彼岸(おはぎ) 手紙:晴風敬歓祭案内/満足度調査返送/各グループ会/面会についてのお願い/手順書レビュー		3

月例行事: みんなの広場 (益成さ・四方隆),

介護相談員 (四方隆), いずみ会ボランティア (各月イベントに合わせる) ※新型コロナウイルス感染状況を鑑みて中止となったが、励ましの手紙を3回頂いた。

理美容 きれい館 (5月・6月・8月・9月・11月・12月・2月・3月)

カットハウス WAVE (4月・7月・10月) ※1月は新型コロナウイルス感染状況を鑑みて中止

買物ツアー PLANT3 (ニーズに合わせて実施) ※新型コロナウイルス感染状況を鑑みて中止

月例イベント食: お楽しみメニュー ※各グループ単位でメニューを検討

※12月以降は「晴風お楽しみメニュー」として2グループ向メニューを提供

(かえでグループ: 4月・6月・8月・10月) (ひのきグループ: 5月・7月・9月・11月)

その他イベント食: セレクトメニュー (月2回) “シェフの気まぐれの日” (月1回)

月例業務/会議: 記録レビュー

体重測定 (第1週: ひのき・かえで)

備品点検, 監視・測定機器点検 (第2週) 挨拶週間 (第3週)

ユニットキッチン清掃 (各棟月1回)

代表者会議, 調理会議, スタッフ会議 (書面にて), NS会議 ※1月は新型コロナウイルス感染状況を鑑みて中止

入居選考会議 ※2月は新型コロナウイルス感染状況を鑑みて中止

拡大代表者会議 (10月・2月・3月), ソーシャルワーカー会議 (4月・7月) ※10月, 1月はスタッフ体制が整わず中止

SQI (特選: 四方隆・調理: 田中洋), 「そら」と「かぜ」便り」発行 ※1月年賀

その他: リハレク (各棟月2回), “唄いの日” (各棟月1回) ※1月 ※1月は新型コロナウイルス感染状況を鑑みて中止

サービス担当者会議

部所別研修を次のとおり開催予定

4	16-30 特晴 “高齢者虐待”, “身体拘束廃止” ※会議内 12:調晴 “感染症対策” ※会議内	10	2-15:特晴 “感染症対策～インフルエンザ～”, “褥瘡予防” ※会議 14:調晴 “事故/苦情防止” ※会議内 18,26:特晴 “緊急時対応” ※時間外
5	12:調晴 “褥瘡予防” ※会議内	11	15,26,29:特晴 “感染症対策～感染性胃腸炎～” ※会議内 17:調晴 “感染症対策” ※会議内
6	11:調晴 “身体拘束廃止” ※会議内	12	
7	13-31 特晴 “事故/苦情防止” ※会議内 14:調晴 “高齢者虐待” ※会議内	1	
8		2	14,16,19:特晴 “身体拘束廃止” ※会議内 17:調晴 “身体拘束廃止” ※会議内
9		3	14,15:特晴 “身体拘束廃止” ※会議内

晴 風
災害対策年次報告

＜活動実績・評価(年度目標達成度)＞

1.目標

利用者の安全と施設の財産の保全を図り、常日頃より防災の意識を高めると共に、予防活動、救助活動を実施する。

2.取組・対策

〔防災〕

- ・総合防災訓練(避難・通報・消火)を年2回、実施した。
5/19 総合防災訓練は、消防署立会いとして計画立案していたが、感染症拡大防止により自主訓練となった。居室出入口上のケアコール表示と火災発生表示の違いを分かってもらうことができた。
11/18 総合防災訓練は、計画通り自主訓練を実施した。避難行動の原則が周知徹底されていなかった。訓練シミュレーションを通して訓練に備える。41名のスタッフのうち27名(66%)に福知山市防災アプリをインストールできた。また、2回の訓練とも感染症対応のため、利用者を誘導しない設定で訓練をした。
- ・防火管理者による防火機器自主点検及び避難経路点検を年2回(9/30・3/19)実施した。
スプリンクラー設備故障については交換予定である。
誘導灯の電池については、すずらんユニットの電池は交換済。すみれユニット、あやめユニット、さくらユニット、ききょうユニットの電池は交換予定である。
屋外設置の送水口標識(スプリンクラー設備)に色あせがあり交換予定である。
- ・消防設備点検業者による消防設備等点検を年2回実施した。

〔EMR.mail〕

- ・EMR.mail(スタッフ緊急連絡網)については、次の通り実施した。
 - ①各スタッフのメールアドレスの登録、変更については総務部が管理した。
 - ②毎月1日、防火管理者がテストメールを作成し送信した。
 - ③テストメールを受信できないスタッフには、防火管理者が個別に確認した。
 - ④感染対策 EMR Level 発令の際は、EMR.mailを活用し啓発した。その他、気象状況(警報・注意報)を適宜、送信して、災害に対する意識を高めた。総合防災訓練の開始と終了時、EMR.mailを送信した。

〔総合防災計画〕

- ・新入スタッフ施設オリエンテーションにて非常災害時の対応に関する研修を実施した。
- ・火災通報装置の使用方法の確認を年2回、実施した。
- ・甲種防火管理者の増員はなかった。
- ・地域の消防団(中六人部分団)との連携に向けての準備に進展はなかった。
- ・福祉避難所の開設要請はなかった。

＜来年度への課題＞

〔防災〕

- ・災害発生時に備えて、更に総合防災訓練の内容を充実させ、本番さながらの状況を想定して実施する必要がある。避難行動の原則を周知徹底する。

- ・防災関係設備等の取扱を全スタッフへ継続的に周知する必要がある。また、福知山市防災アプリを全スタッフにインストールしてもらうよう努める。

〔総合防災計画〕

- ・21.5.20 内閣府・消防庁の変更による避難勧告廃止等を「避難確保計画」に反映する。
- ・「総合防災計画」、「避難確保計画」の内容を周知する必要がある。
- ・災害時における地域との協力体制を構築する必要がある。

＜年間活動実績＞

月	活動内容
4	1:非常災害時の対応に関する説明（新入スタッフ施設オリエンテーション）
5	2:消防署との打ち合わせ 19:消防設備点検業者による消防設備等点検 総合防災訓練（避難・通報・消火）〔火災・昼間想定〕※自主訓練 火災通報装置の使用方法の確認
9	30:防火機器自主点検及び避難経路点検
	＜秋季火災予防運動＞
11	8:消防署との打ち合わせ 18:消防設備点検業者による消防設備等点検 総合防災訓練（避難・通報・消火）〔地震・夜間想定〕※自主訓練
	＜春季火災予防運動＞
3	10:「総合防災計画」、「避難確保計画」のレビュー 19:防火機器自主点検及び避難経路点検

高齢者複合福祉施設

えるむ

事業報告

<施設理念>

「ありがとう」にあふれる、

地域で創めるこれからの暮らし

特別養護老人ホーム えるむ
(えるむ ショートステイ)
事業報告

<活動実績・評価（年度目標達成度）>

1.利用者の安心，安全な生活環境を整えると共に，ケアの質の向上を目指す。

(評価)

居室内，リビングに対し，危険を回避する為の確認を行うこととしていたが，生活環境が原因となる事故が2件発生した。今後も，居室内，リビングの確認を行い，安心，安全な生活環境を整えて行く必要がある。ケアの向上については，計画的な勉強会を実施してケアの質の向上を図ったが，新入スタッフも多く，介護方法の統一ができてないことがあった。今後も，勉強会を実施してケアの質の向上に努める必要がある。

1-①「事故報告書」，「苦情報告書」の是正処置検討内容をケアコラボにて申し送り，他職種と情報共有を行う。

(評価)

是正処置内容をケアコラボに申し送り，他職種と情報共有は行えたが，分析や是正検討が遅く，タイムリーな情報共有ができていないことがあった。

1-②月1回居室内(タンス内も含む)の整理，整頓，必要物品の確認を利用者担当が行い，実施時には「居室掃除チェック表」に印を付ける。

(評価)

上半期は利用者担当の意識が低く，月に1回の居室内の整理，整頓，必要物品の確認ができていない担当者がいた。下半期には，確実に実施できるよう利用者担当以外でも居室内の整理，整頓，必要物品の確認を行うことで，全体として実施することができた。実施後には，「居室掃除チェック表」に印を付けることもできた。

1-③月1回利用者担当が朝ミーティングで口腔ケアの方法(使用品含む)を伝達，確認し，確認内容をケアコラボで申し送り実施する。

(評価)

朝ミーティング時に口腔ケアの方法を伝達，確認できていない利用者担当もいたが，担当者が伝達，確認できた利用者は，口腔ケアの具体的な方法をケアコラボで申し送ることで口腔ケアを実施することができた。

・フロア会で実施状況の確認，検討を行い，統一事項をソーシャルワーカーに伝え「アセスメントシート」に記載する。

(評価)

フロア会毎に，口腔ケアの実施状況の確認，検討ができ，必要物品，介助方法の統一ができた。また統一事項についても，ソーシャルワーカーに伝え「アセスメントシート」に記載し，随時更新を行うことができた。

1-④利用者担当が，他職種と相談して利用者個々に適したポジショニング(クッションを含む)の写真を撮り，居室に掲示し褥瘡予防に努める。

(評価)

利用者担当の褥瘡予防に対するポジショニングの認識が低く、ほとんどの入居者に対して、ポジショニングの検討、写真を居室に掲示できていない。褥瘡発生時は、利用者担当が褥瘡の状態に合わせたポジショニングの検討を行い、検討したポジショニングを写真に撮り、居室に掲示することができたが、発生後の対応となった。今後、利用者担当は褥瘡予防に対する意識を高めるとともに、統一したポジショニングを行う必要があるため、褥瘡予防の勉強会を行う必要がある。

1-⑤看取り期において、一日の支援内容を朝ミーティングで確認、共有して実施する。

(評価)

上半期は看取り期の入居者がおられず、下半期(10月)に1名のみではあるが、看取りに関する一日の支援方法を朝ミーティングで確認し、ケアラボで申し送り共有を行った。21.12以降3件の看取りがあり、2件は思い出や、本人が望んでいた支援を朝ミーティング時に他職種と確認、共有することができた。1件は、朝ミーティング時以外で支援内容を検討し、ケアラボで共有して実施することができた。

・評価はクロージングカンファレンスにて実施し、サービス担当者会議録に記載する。

(評価)

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、クロージングカンファレンスが行えておらず、評価は未実施となった。

1-⑥スタッフの部所別研修を計画的に開催し、スタッフの専門知識及び技術の向上を図る。

※別紙年間活動計画参照

(評価)

全て予定通り実施できた。しかし、資料の読み合わせによる勉強会がほとんどであり、専門知識を深めることはできていない。専門技術に関して、“基礎的な介護技術”を行ったことで、技術向上を図ることができたが、継続的に勉強会を実施していく必要がある。

※実施内容については「2021年度えるむ年間活動実績」参照

(ケアワーカー)

2.利用者との関わりを大切にし、介護技術の向上を目指す。

(評価)

日々の業務を優先したことで、利用者との関わり意識が薄かった。また気付いたことに対する介護技術の検討、方法の確認までに至っていないが、オリジナルテーマとして、“基礎的な介護技術”の勉強会を実施したことで、介護技術向上に努めることはできた。

2-①利用者の個別ニーズを利用者担当が意見聴取し、支援内容をサービス担当者会議時に伝え「ケアプラン」に反映させる。

(評価)

ポプラフロアは、重度化が進んでいることによりニーズを聞き出すことが難しく、また聞き取りができた入居者に対しても、利用者担当が「ケアプラン」に反映させる意識が低く、サービス担当者会議で意見を伝えることができていない。オリーブフロアは、聞き取り内容からヒントを得て、支援内容をサービス担当者会議時に伝え「ケアプラン」に反映させることができた。

・実施状況は、モニタリングとしてケアラボに記録する。

(評価)

ポプラフロアは、利用者担当が聞き取ったニーズに対する支援を実施しておらず、モニタリングができていない。オリーブフロアは、実施状況をモニタリングとしてケアコラボに写真も添付して記録することができた。

2-②スライディングシートの適切な使い方の勉強会をフロア会内で実施。(4月・11月)

(評価)

4月、11月のポプラフロア会にて、スライディングシートの勉強会を実施できた。オリーブフロアについては、再稼働後、2月のオリーブフロア会で実施した。

(ナース)

3.利用者の健康管理及び機能低下防止に努める。

(評価)

利用者のバイタルサイン測定を実施するとともに、体調不良時にはDrと早期に連絡を取り、対応することができた。体調に合わせてバイタルサイン測定の間隔を決めて健康管理を行うように配慮することもできた。また、機能低下防止訓練も実施でき、評価も確実に行うことができた。

3-①参加希望者のみでのレクリエーションを、月1回以上ユニットで行う。

(評価)

毎月1回、各フロアにて参加希望者のみでのリハビリレクリエーションを実施することができた。また、毎日デマンドに沿った余暇支援(家事支援・レクリエーション・外気浴等)を実施することもできた。

3-②利用者のポジショニングを確認し、姿勢保持、褥瘡発生防止に努める。

(評価)

ナース会でポジショニングを検討し、検討内容をポプラ会にて伝えたが、具体的なポジショニングを伝えられておらず、褥瘡発生防止に努めたとまでは言えない。

(ソーシャルワーカー)

4.利用者のニーズを聞き出し、ケアプラン作成及びその人らしい生活支援を目指す。

(評価)

ニーズを聞く為のラウンドを実施でき、利用者から情報収集を行えたことで、利用者個々のニーズ、生活支援に即した「ケアプラン」を作成することができた。

4-①相談ラウンドを行い、聞き取った内容をケアコラボへ記載して情報共有を行う。

(評価)

相談ラウンドを毎月1回以上行い、必要に応じケアコラボに記載し情報共有ができた。

4-②入居者のニーズに沿った外出支援を企画し実施する。

(評価)

ニーズに沿った外出支援を年4回(5名)企画し、実施することができた。

4-③サービス担当者会議時に「アセスメントシート」、「私の姿と気持ちシート」を他職種、家族と確認する。

(評価)

サービス担当者会議にて、「アセスメントシート」、「私の姿と気持ちシート」を他職種と確認することができ、家族や他職種からの意見についても、追記することができた。

4-④利用者と共に、季節の野菜や花作りを楽しむ。

(評価)

21.5.22 5名の入居者とともに空庭のプランターを活用して、野菜の苗植えや種まきを行った。入居者からは、「昔からしていたから」と話しながら手際よく土いじりを楽しんでいた。その後も、空庭に入居者が行かれた時は、「トマトができよる。おいしそう」「きゅうりはまだやな」「花が綺麗や、何の花やろ」など、楽しんで頂けている声が聞かれた。稲刈りは天候不良で延期することになり、予定していた日程から2週間ほど遅い、21.10.13に実施した。また稲を使った正月飾り作りは、スタッフの体制上困難な状況で未作成となった。秋以降も菜園が活用できるようにしたい。

[えるむショートステイ]

5.スムーズな受入れに備えた情報収集を行う。

(評価)

登録者の現状確認を行った際、ケアマネジャーに受け持ち利用者の家族ニーズを確認し、情報収集を行うことができた。

5-①登録者の現況確認を年2回実施する。

(評価)

登録者の現況確認を年2回実施できた。

5-②空床や利用キャンセルが分かり次第、各居宅介護支援事業所に電話連絡し、利用者獲得に努める。

(評価)

(床数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
空床数	9	0	0	0	0	0	23	119	114	60	51	82

計458床の空床が発生した。内訳として、入院、退居に伴う空床数264床(10月空床利用ができない居室41床含む)が発生した。4月の空床発生時に、空心福社会ケアプランセンターに連絡し、空床状況を伝えた。空床発生2日後に病院へ状態確認を行うと、7日後の退院とムンテラの日程が決まり、空床日数が短いと判断し、各居宅介護支援事業所に電話連絡を行っていない。短い空床日数においても、空床の稼働を目指し、各居宅介護支援事業所に電話連絡をする必要があった。空心福社会ケアプランセンターに退院予定を伝えた時、家族、利用者のニーズが無いことを確認した。21.11.16 オリーブフロアを再稼働し、21.12.29の満床に至るまでに162床の空床が発生。11月-3月のオリーブフロア再稼働以外の空床数264床発生となったが、オリーブフロアの入居調整を優先した為に入居待機者確保が難しい状況となった。

<その他>

・実績:

<月間稼働率>

(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
率	67.9	68.9	68.9	68.9	68.9	68.9	68.4	70.8	87.3	93.3	93.7	90.8

年間稼働率は76.2%であった。21.11.16にオリーブフロアの再稼働に伴い、稼働率が高くなった。今年度、入院者は4名であったが長期の入院により、空床135床発生した。退居者は3名であり、延空床数129床となった。

・救急搬送：1件

○3月、心不全の疑いにて救急搬送を行った。

・行政報告：0件

・物品破損：発生件数48件(過誤21件・事故22件・不明5件)

不明な破損が5件発生し、年々、不明件数が微増してきている。過誤の破損は、21件あり、より慎重に物を取り扱うことで、不注意による破損を起こさないようにする必要がある。事故の破損については経年劣化も含まれるが、経年劣化を遅らせるための掃除や確認、整備等、様々な工夫が必要である。

・水道光熱費

：水道光熱費について、代表者会、スタッフ会、スタッフ掲示板に使用量を掲示するとともに、無駄な使用を避ける為に啓発を行っている。今年度は、オリーブフロアの再稼働に伴い、2月に電気使用量の最高値となり、2/22デマンドが113kwと高い値となった。今後の推移を確認しながら、使用量の把握、無駄な使用を避けるための啓発を継続していく。

・運営推進会議

：新型コロナウイルスの影響により、4月から意見聴取という形で計画通り年6回開催する事ができた。

・サークル活動

：“書のある暮らし”：4月はグループホーム、特養少人数での合同開催としたが、1月、3月は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、グループホーム、特養に分かれて習字を楽しんで頂く事ができた。

：“Lクラフト”：6月、8月は、花火の貼り絵を作成し、敬祝祭、丘児童センター文化祭、愛いろいろ展に展示することができた。10月は、ストリングスアートを作成し、丘児童センター文化祭に出展した。

：“カラオケ広場”：7月、11月に密にならないよう間隔を空け、少人数での開催とした。

：“えるむシンフォニー”：9月、12月に実施。各フロア開催とし、密にならないように配慮した上で実施した。

<来年度への課題>

ケアワーカー

- ・チームケアを目指すとともに、統一されたケアの方法と、その統一したケアの継続する方法を確立する必要がある。
- ・重度化に伴い、ニーズの聞き取りは難しくなる中、ニーズを引き出す為の手法を確立させる必要がある。
- ・専門職として、個別のスキルアップを図る必要がある。

ナース

- ・専門知識を生かし、ポジショニングの確認，健康管理を継続的に行う必要がある。

ソーシャルワーカー

- ・利用者のニーズの確認，家族を含めた情報収集を継続して行い、利用者が望む生活を支援できるようにする。

ショートステイ

- ・ショートステイの稼働に備え、登録者の現況確認及び居宅ケアマネジャーに受け持ち利用者家族のニーズ確認の継続。必要書類，必要備品の確認及びショートステイに関する手順の確認を行う必要がある。

グループホーム えるむ
(えるむ デイサービス)
事業報告

＜活動実績・評価（年度目標達成度）＞

1.毎日の暮らしを充実させる支援を考え、入居者と共に生活を送る。

(評価)

2回/週(月・金)のレクや、8月より“個別支援”を毎日担当を決めて行うようにしたことにより、ケアプランに沿った支援と、入居者のニーズに応えられる時間が取れるようになり支援の偏りは少なくなった。また、食事の盛り付け作業を新たに行うようにしたことで、共に生活を送ることに近づけた。

1-①レクリエーションの月担当を決め、週2回(月・金)実施する。月担当は“GH えるむ年間活動計画”に記載し物品の準備も含め段取りを行う。

(評価)

月担当者が月間予定にレク内容を記入し、それに基づき当日Lが時間、人員を采配して、実施することができた。最初は風船バレー等が多かったが、現在ではバリエーションも増えており、レクリエーションに使用する物品を入居者と一緒に作成することができた。レクの実施は浸透、定着している上に、月、金以外でも空いた時間にレクの時間が取れるようになった。課題として、月、金曜日に出勤するスタッフが固定されており、レクに参加できないスタッフがいた。全スタッフが参加できるよう、次年度では曜日の変更が必要である。

1-②季節の食材を使用し、漬物、ジャム、乾物等の保存食を入居者と共に作る。

(評価)

9月作成予定としていたが、実施できなかった。理由として、食材(みょうが)購入の話はしていたが、8-9月頃はみょうがの価格が高い時季ということもあり購入をしなかった。生姜のハチミツシロップを冬に作成する計画をしていたが、1月時点で新生姜の季節を過ぎてしまった為、代替りの保存食作りとして2月にゆず大根、3月に金柑の甘露煮を入居者と一緒に調理することができた。

1-③部所別研修を計画的に開催する。

(評価)

会議内で部所別研修を実施したが、参加スタッフ数が少なく会議外でも行う必要があった。研修は何度かに分けて行った。

※「2021年度えるむ年間活動実績」参照

オリジナルテーマのノーリフティングについては、未実施。7月に実施予定であったが、日程の調整ができず延期していたが、他の部所別研修も遅れがちであり、法定分の研修を優先した為、ノーリフティングの研修が行えなかった。

1-④年3回(月3-4人)部長とケアワーカーの個人面談を実施する。日程は各スタッフと相談後、個人面談入力表(空心.net⇒作業フォルダ ミモザフロア内)に入力する。

(評価)

予定が合わず翌月になるスタッフもいたが、実施できた。スタッフからはもっと話をしたい、親身に話を聞いてもらえた等の好意的な意見が多くあった。スタッフからの意見をもとに、入

居者への対応についての指導を行うこともでき、ケアの改善にも役立てることができた。

- 1-⑤調理実習(勉強会)を年3回実施し、最低でも1人、年1回以上は参加する。(担当者は“GHえるむ年間活動計画”に記載する)

(評価)

目標通り(4/9 三色団子, 6/18 チヂミ, 10/28 ドーナツ)実施することができ、計12人参加することができた。調理したおやつについては、入居者のおやつとして提供した。全スタッフの参加はできなかったが、調理技術の向上につながる為、次年度も継続して実施する。

- 1-⑥入居者と一緒に作業を行う支援方法を検討する。

(評価)

入居者個々が行うことができる作業をまとめた「ケアプラン抜粋表」を作成した。個人支援等で活用しているが、支援が少ない入居者もおられた。新たに増やした作業としては、食事を食器によそって頂く支援を始めることができた。ただ、毎回行うことができていない為、定着までには至っていない。

- 1-⑦日常の支援としてドライブ等で外出が行えるようにする。

(評価)

日常の支援としてのドライブは9名実施することができた。新型コロナウイルスの影響もあり、支援の選択肢の中に外出が含まれにくい状態であった。また、運転できるスタッフが限られていることもあり、計画的に実施していく必要があった。

(ケアワーカー)

- 2.有意義な生活を送って頂くために、様々な企画を起案し実施する。

(評価)

ミモザイベント、ミモザシアター、ミモザパーティーに関しては、起案の遅れや準備不足な点も見られたが、毎月ローテーションで行うことができ、入居者が楽しく過ごせる時間を作り出すことができた。

- 2-①3ヵ月に1回、運動会、球技大会、合唱等、入居者に楽しんで頂けるミモザイベントを開催する。

(評価)

6/19 国土無双～今日こそ俺・私の出番だ～では、2部開催として各ユニットで実施した。運動会をテーマにレクを4種類実施し、順位をつけて競って頂いた。スタッフ全体で盛り上げようとする意識が感じられ、活気のあるイベントになった。参加された入居者も楽しまれており、活発に動いておられた。

9/20 秋本番～グランドゴルフ大会～を実施。フロア内を広く使い、グランドゴルフを行った。1-5番までのコースを作り、スタッフと入居者が一緒に回りながら楽しんで頂く事ができた。3位までを表彰させて頂き、賞状をお渡しした。

12/25～今年もありがとう ハートをあなたに～では、オリエンテーリング形式でスタッフからハートを集め、色紙に貼るとメッセージができ上がる内容であり、スタッフとの交流も兼ねたイベントになった。メッセージができた時の笑顔を写真にも納めることができた。

3/30 うーピンゴ！！～すべての景品はおらの物～では、パソコンの画面をスクリーンに映し出し、ピンゴゲームを実施した。一人では難しい入居者の方にはスタッフが付き添い、番号が出るたびに喜ばれたり残念がられる姿が見られ、ゲームを楽しんで頂いた。景品はスタ

ップの手作りで作成し、手渡すことができた。入居者は笑顔で受け取られ、居室に飾られる方も多数おられた。

2-②年 1 回以上、フロア企画を起案し実施する。

(評価)

フロア企画を検討していたが、ミモザイベント、ミモザパーティー、ミモザシアターと内容が被らないようにと考えてしまい、起案内容が決まらずなかなか実施ができなかった。入居者のニーズを確認し、花に関する意見が多かった為、3/23「リモート旅行！植物園に行ってお花に触れよう！！」を企画し実施した。動画をプロジェクターで映し、入居者には手作りの花束を渡すことができた。

2-③3 ヶ月に 1 回、入居者全員参加型で、ミモザパーティー(パーティー形式の食事会)を開催する。季節に合わせて、食事の内容を考え、バイキング、レストラン形式で行い、準備はスタッフ、入居者と一緒に行う。

(評価)

5/25 には、屋台風の食事(たこ焼き各種・ベビーカステラ・すまし汁・おにぎり)を提供した。

たこ焼きの準備などでは入居者にも手伝って頂き、上手にひっくり返しておられた。

9/28 は屋台を使用しアイスと各種トッピング、かき氷を提供することができた。思い思いのトッピングをそれぞれの入居者がされ、楽しんで頂く事ができた。

11/23 には焼肉パーティーとして、ホットプレートで牛肉、鶏肉、豚生姜焼き、ハンバーグ、野菜を焼き、満足するまで食べて頂く事ができた。

2/20 ホットケーキを焼いて頂き、果物やホイップクリームをトッピングするおやつ作りをスタッフと一緒にいった。トッピングを沢山用意していたので、ホットケーキにのせる際も笑顔で迷われていた。

2-④3 ヶ月に 1 回、ミモザシアターとしてリモート旅行、歌番組、映画鑑賞をする。事前に入居者より希望を聞き取り、それに合わせた内容で実施する。

(評価)

6/28 “美空ひばりショー” 8/30 昭和の歌ベスト 10!! 心に残る名曲!! の鑑賞を実施できた。

入居者の知っている曲も多くあり、手拍子をされたり一緒に歌を唄われる等、映像と歌で楽しんで頂く事ができた。

10/21 “そうだ京都、行こう。(リモート)” では、綺麗に紅く染まった紅葉を観ながら昔話をされる入居者もおられ、笑顔も見ることができた。

3/26 “おもしろ動画集” では、色々な動物や赤ちゃんなどが出てくる映像を見て頂き、喜んでおられる方が多く、楽しんで頂けた。

(ケアマネジャー)

3.その人らしさを他職種が共有し、楽しみを感じて頂ける生活を送って頂く。

(評価)

特養のソーシャルワーカーとも協力して、サークル活動(Lクラフト・書のある暮らし・えるむシンフォニー・カラオケ広場)を実施した。入居者の好まれる活動を支援しながら、多職種と共有して楽しむ時間を持つことができた。今年度は入院者が多く ADL の変化が著しい方もおられ、都度プランの変更を行い対応することができた。

3-①「アセスメントシート」、「私の姿と気持ちシート」をサービス担当者会議の実施月に担当スタ

ップへ配布し、サービス担当者会議時に確認、変更を行う。

(評価)

「アセスメントシート」、「私の姿と気持ちシート」だけではなく、「24シート」も追加で担当者へ配布し、情報の追加、変更を行うことができた。ただ、「アセスメントシート」の食事形態などはタイムリーに変更することができておらず、課題が残った。

3-②利用者と共に菜園作りを行い、空庭の花壇、プランター等を利用しながら、野菜や花の世話、収穫を楽しんで頂けるようにする。実施した内容についてはケアプランに沿って評価を行う。

(評価)

5/22 入居者と一緒に、花の種、苗、プチトマト、ヒマワリ、キュウリの苗植えを実施。また7月にはプチトマトやキュウリの収穫を行った。稲刈りは天候不良で延期することになり、予定していた日程から2週間ほど遅い10/13に実施した。参加された入居者はプランに沿って評価を行い、サービス担当者会議にて共有したが、ケアプランの作成が遅れていた分もあり、一部の入居者のみとなってしまった。また、秋から冬にかけては菜園で花を育てることはできなかった。来年度は冬にも強い花を育てたい。

[えるむデイサービス]

4.利用中の様子を家族に、より伝えることができる仕組み作りを行う。

(評価)

新たな様式を活用することはできなかったが、独居の利用者に対して家族へ電話にて状況を伝えることができた。乾燥肌からくる掻痒症が見られた際には軟膏等を持参して頂くなど、家族へ状況を伝えることはできた。

4-①利用中の写真を活用して、上半期中におたよりの様式変更を行う。

(評価)

上半期中にお便りの様式を変更することとしていたが、新たな様式を作成することができていない。作成することはできたが、3月に完成となった為、使用は次年度から行う予定。

<その他>

・実績:

<月間稼働率>

(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
率	100.0	96.2	93.3	98.9	100.0	96.6	95.5	96.3	87.8	96.4	98.2	100.0

年間稼働率は96.6%であった。今年度は入院者が多かったこともあり、稼働率を100%でキープできたのは3ヵ月間のみであった。退居者は2名おられたが、退居から入居までの日数は延べ14日であった。年間の空床数は223床の空床となった。

・救急搬送:1件

○5/19 顔面蒼白であり声掛けに応じられず、呼吸も荒く開眼されない状態であった為、救急車にて救急搬送。肺炎と診断あり入院された。

・行政報告:5件

○11/25 居室で就寝介助の際、目を離した間に転倒される。家族様対応で福知山市民病院へ行かれ、結果は右大腿骨頸部骨折だった為入院となった。

○11/8 自室で転倒。自分で放尿されたあと、滑って転倒されたと思われる。家族へ連絡し、

状態を報告。家族対応にて福知山市民 Hp へ受診され、骨折の診断あり入院となった。

○9/12 居室のベッドサイドで転倒。左足付け根部分に強い痛みがあり、家族対応で受診。骨折の診断あり入院となった。

○6/23 肘掛椅子から一人で立ち上がり、肘掛椅子ごと右側に転倒される。手引き歩行すると、痛みがあるようであり、家族対応にて綾部市立病院へ受診され、右腸骨の骨折と診断あり。入院はされず、保存療法で様子を見ることになった。

○5/21 自室で転倒。右足付け根付近に強い痛みあり家族対応で受診。骨折の診断あり入院となった。

・物品破損：総発生件数 18 件(過誤 7 件・事故 8 件・不明 3 件)

経年劣化による物品破損の件数が増えている。取り扱い方法や保管方法など、工夫を行うことができるようにする必要がある。

・水道光熱費

：前年度に比べると全体的に使用量、金額は上がっているが、オリーブフロア再稼働に伴って上がっていると思われる。

・運営推進会議

：新型コロナウイルスの影響により、意見聴取の形で運営推進会議を開催した。計画通り年 6 回開催する事ができた。

・サークル活動

：“書のある暮らし”；4 月，1 月，3 月に実施。少人数で開催し、書字を楽しんで頂く事ができた。1，3 月は密になることを防ぐために、各フロアでの開催とした。

：“L クラフト”；6 月，8 月，10 月に実施。花火の貼り絵を作成し、敬祝祭に展示することができた。ストリングスアートを作成した際は、簡単な作業ということもあり、沢山の入居者に参加して作品を作ってもらった。

：“カラオケ広場”；7 月，11 月に実施。入居者数名での参加であったが、歌が好きな方が集まってもらったこともあり、ほとんどの歌を知っておられ口ずさんでおられた。開催はコミュニティホールで行い、イスの間隔を空け密にならないように実施した。

：“えるむシンフォニー”；9 月，12 月に実施。開催方法は各フロア開催とし、密にならないように配慮した上で実施した。

＜来年度への課題＞

- ・毎月イベントを考え実施したが、スタッフへの負担が大きく、頻度はもう少し少なくても良かった。次年度については回数を減らす等、検討が必要である。
- ・調理技術、知識が不足している為、内容の検討も併せ、次年度も継続して調理実習を行う必要がある。
- ・入居者の快適な生活を充実させる為にも、専門的知識や介護技術の底上げを行う必要がある。
- ・スタッフのみで作業を行ってしまい、入居者と一緒に作業することができていないことがある為、共に行うことを徹底する必要がある。
- ・家庭的な雰囲気の出がまだ不十分である為、検討を重ねる必要がある。
- ・転倒による骨折の件数が多い。有効な是正が考えられていないことや、タイムリーに是正の

周知を行うことができていないことも要因として考えられる為、対策を考える必要がある。

ケアマネジャー

- ・サービス担当者会議を充実させる為、様々な意見の聞き取りや会議参加者を増やすなどの工夫が必要である。

デイサービス

- ・新たに作成したお便りを、どのように運用していくか考える必要がある。
- ・安定的な利用者の確保が行えるよう、対策を考える必要がある。

えるむ 調理
(えるむの樹)
事業報告

＜活動実績・評価（年度目標達成度）＞

1. 衛生面の徹底および効率的で統一した業務を行う事により、安全な食事が継続的に提供できる体制を作る。

(評価)

日々の清掃、記録、食材の扱い方等含め、互いに気づいた時点で注意し合い、毎月の調理会でも全員で再検討、再確認を行えた。また、常に衛生面に留意した業務を意識することにより、食中毒発生は0件で終える事ができたが、事故に関しては9件発生した。しかし上半期内で発生した事故は確実に是正を継続して実施できた事もあり、下半期はB判定、C判定各1件のみの発生で終える事ができた。オリーブF再稼動に伴い、かなり忙しい業務状況が続いているが、他職種とも連携、協力することで、安全な食事提供に繋げる事ができた。

- 1-①事故発生時には、必ず日誌にて申し送り、また直近の調理会にて是正処置内容含め全員で再確認をし周知徹底を行う。

(評価)

事故件数：上半期8件 下半期2件

事故発生時には、是正検討を行い、調理会では全員で再確認の場を持ち継続的な改善により、下半期の事故件数減少に繋げる事ができた。しかし、5月：2件、10月：1件は日誌での申し送りが抜けていた。

- ・「ヒヤリ・ハットMail」も積極的に提出し、全体の危機管理意識をあげる。(調理会にて危機管理委員より併せて伝達し確認)

(評価)

提出件数：20件(2月末現在)

意識できている時は提出件数が多かったが、下半期は業務に追われた事もあり、気づいていても提出にすぐに動けず、結果提出件数が減少した。また、提出者にも偏りがあったため、全体で提出率を上げるよう意識していくことが必要である。毎月の調理会では他部所提出内容も含め、必要に応じ是正検討も行い全員で確認することができた。

- 1-②利用者の禁止食、提供量の統一等注意点を毎月の調理会にて再確認する。

(評価)

毎月の調理会にて、各利用者の状態確認の場を持ち、また、代替え提供時には献立表にも追記し朝ミーティングでも確認し合う事ができた。

- 1-③在庫食材の賞味、消費期限を管理する。(パントリー・冷凍庫・冷蔵庫清掃時にチェックし期限が近い物は口頭、及びボードに書き出し引き継ぐ)

(評価)

清掃時等にチェックしボードに書き出す、口頭でも申し送る等の対応をしていたが、チェック漏れもあり、大袋の乾物類や、頻回に使用しない食材等を少し破棄せざるを得ない時もあった。その為、業務用の購入はできるだけ避け、期限内に消費できるよう、単価は少し上がっても家庭用の量の物を購入するよう切り替え対応した。

1-④部所別研修を実施する。※会議内で実施

テーマ：4/19 “事故／苦情防止”

5/17 “感染症対策～食中毒

6/14 “身体拘束廃止”

7/12 “褥瘡予防”

10/12 “高齢者虐待”

11/10 “感染症予防～インフルエンザ・ノロウイルス・コロナウイルス～

1/21 “身体拘束廃止”

(評価)

全て予定通り実施できた。ただ、限られた時間内での実施により、深く掘り下げるまではできなかったため、継続的に実施していく必要がある。

※「2021年度えるむ年間活動実績」参照

(調理員)

2. 利用者が「美味しそう」、「食べたい」と思える食事、そして「美味しかった」と笑顔になれる食事が提供できるよう、個々の調理技術、知識を習得、向上させ実践に活かす。

(評価)

日々の食事もイベント食や行事食の時も、可能な限り季節の食材を使った手作りでの料理を提供し、利用者の良い笑顔と共に「美味しかった」との声を沢山頂く事ができた。新入スタッフには常に作業ごとにチェックをしながら業務を行い継続していく事により、調理時のポイント等を含めた知識や技術も徐々に身に付いてきた。ただ、各利用者のADL等の把握の時間を十分に取る事ができなかった事もあり、その時に一番適した食事形態で臨機応変に提供する、食材や料理に合わせ綺麗に盛り付けをする等については、もう少し練習が必要である。

- 2-①調理実習を2回／半期、業務内で実施していく。(日常のメニューも活用)

(評価)

上半期は2回実施できたが、下半期は時間が取れず実施できなかった。

- ・現在備蓄している非常食の調理実習を行い、非常時の状況に合わせたシミュレーションを行う。

(評価)

9/17に実施。水、熱湯、加熱、浸漬時間を増やす等様々な設定で実習を行った。有事の際、記載通りの調理方法では粗刻み以下の利用者への提供ができない為、調理、提供方法や追加必要物品等の再検討が必要な事等もわかり、有効な実習となった。

- ・ソフト食が行事食等で確実に提供できるよう、調理実習にてレシピを作成する。

(評価)

7/16に実施。食材、水分量に合わせた“まとめるこ”の使用量、調理方法の確認まではでき、行事食での提供もできたが、全てを整理しレシピ作成までには至らなかった。

- 2-②セレクトメニュー聞き取り用アルバムを作成する。(上半期)

(評価)

数種類の写真は撮れたが、撮り忘れ等もあり、また、アルバム作成にかかる時間も取れず未完成のままとなった。

- 2-③行事食、イベント食時には、全ての食事形態の利用者が目でも味でも楽しめるよう、ソフト食、

ムース食等の提供に取り組む。

(評価)

行事食、イベント食時には、メニューと利用者の状態を鑑みた上で業務体制上可能な時はソフト食を提供し、綺麗に摂取して頂く事ができた。ただ、実習の時間が確保できず、全調理職員がソフト食を同じ味、固さに調理できるまでに至っていない為、継続した練習の機会が必要である。

(栄養士)

3. 利用者個々の状態、ニーズを把握し、他職種とも連携した栄養ケアマネジメントを行うことにより、最期まで安全に“食べる”楽しみを持って頂ける献立、提供に繋げる。

(評価)

常に自身の目で食事提供後の摂取状況を確認し、毎月栄養ケアマネジメントのモニタリングをケアコラボに記録することで、他職種とも情報共有ができた。また栄養評価だけでなく、どうすれば自力摂取しやすいか、食べやすいのか等気づきや意見等も互いに情報として得る事ができている為、利用者個々の状態に合わせた提供に繋げる事ができた。下半期では、疾患悪化による顕著な食欲減退や褥瘡発生者に対し、ナースと連携し補食、栄養補助食品(サンプル請求)の追加提供等、すぐに対応を行い、褥瘡発生者については早期の治癒に繋げる事ができた。ターミナルケア対象者への提供内容や量についても他職種と検討、連携し調整することで、体調を維持し現在も毎日の食事を楽しんで頂けている。

- 3.①日々の状態確認と併せ、入居者のサービス担当者会議に可能な限り参加(照会含め)し、入居者の新情報を得て、個別の栄養ケアマネジメントに活かす。

(評価)

スタッフ体制が整わず、全てのサービス担当者会議への参加は難しかったが、照会含め可能な限り参加し、食事面からの意見を伝え、また互いの情報共有も行う事で日々の支援に繋がられた。

- 3.②食事量減少、体調不良時等、対象利用者が一番安全に美味しく摂取できる物を提供するため、食材準備、調理法等、調理員と連携し対応する。(摂取状況等、「調理日誌」にて引き継ぐ)

(評価)

食事量減少、体調不良時の入居者があれば、食事時に必ず確認に行き(対応不可の時はケアコラボ・「調理日誌」等にて確認)、また、意思疎通が可能な入居者であれば直接本人にどうすれば食べやすいか等を聞き取り、調理法を変更し提供する等、少しでも摂取量を増やせるよう働きかけた。その対応方法等は朝ミーティング等で引継ぎ、またケアコラボ、「調理日誌」にも記録し他職種にも共有できた。

- 3.③非常食調理後、献立、必要量等含めレシピの再作成を行い、他職種へも伝達を行う。(各会議活用)

(評価)

非常食の調理実習は、実施できたが、以降は検討や追加の実習をする時間が確保できず、粗刻み以下の方への調理方法等の検討、レシピの再作成まで至らなかった。ただ、今回初めて、現在法人で所持している非常食を調理、試食をしてみて、実際の災害時に高齢者に提供できる物か否かが分かった事は大きな成果だった。

(にれの木園)

4. 委託業者と連携し、利用者にとって食べやすく美味しい食事を安全に提供する。

(評価)

毎月の調理会および随時に委託業者と連携、相談を行い、安全な食事提供ができた。

- 4-①月 1 回、委託業者との調理会を開催し、利用者のニーズを伝え意見交換、情報共有の場を持つ。

(評価)

会議の中で、参加ケアワーカーより利用者の要望を委託側へ伝える事ができた。また食事だけでなく提供方法や利用者への対応なども相談し連携対応することができた。

- 4-②食事形態の変更等は他職種と協力、連携し、円滑かつタイムリーに対応する。

(評価)

食事変更等を、サービス担当者会議や必要に応じ随時に他職種と相談し、適正な食事形態に変更し対応できた。

- 4-③行事食やおやつ等に季節感のある食事(食材)を取り入れられるよう連携し提供していく。

(評価)

利用者からの要望を調理会の中で意見を出し合い導入することができた。また、毎月の献立の打ち合わせの中で旬の食材導入やメニューの提案等も行い提供することができた。

<来年度への課題>

- ・日々の点検及び記録の徹底を今後も行い、確実性、安全性を担保できる体制を維持する。
- ・今後も危機管理意識を持ち業務を行っていく為にも、全調理スタッフで「ヒヤリ・ハット Mail」提出にて事故予防に繋げられるよう取り組んでいく必要がある。また、事故発生時には早急には正処置検討及び報告書の作成を行った上で日誌に残し、全員が周知できる体制を維持していく。
- ・各 F ユニットキッチンを衛生的に維持できるよう、他部所とも連携し取り組んでいく。
- ・災害発生時に全食事形態の利用者が安全に摂取できるよう、非常食の提供方法、内容を再検討しまとめる必要がある。

(調理員)

- ・フォロースタッフ含め、全員の調理技術を上げる為の取り組みを日々の業務でのレクチャー含め、継続的に実施していく必要がある。
- ・安全な食事形態での提供ができるよう、入居者の情報収集、及び他職種とも共有する為、記録、伝達の徹底を継続的に行っていく必要がある。

(栄養士)

- ・低栄養状態のリスクや身体状況に合わせた栄養ケアマネジメントを実施し、各部所と連携の上栄養状態等の改善、維持に取り組んでいく必要がある。
- ・栄養士の育成が必要である。

(にれの木園)

- ・定期的な委託業者との意見交換の場を継続的に開催し、利用者を楽しんで頂ける食事を安全に提供できるよう、更に密に連携していく必要がある。
- ・栄養ケアマネジメント業務を確立し、他職種と連携しながら入居者の栄養状態の把握、改善、維持に取り組む力量をつける必要がある。

2021 年度えるむ年間活動実績

月	活動内容	月	活動内容
4	3:花見(外出・お花見弁当) 23:サークル活動 “書のある暮らし”	10	21:ミモザシアター 28:サークル活動 “Lクラフト” 30:えるむシネマ
	手紙:行事食同意,「緊急連絡先/面会確認者」(再確認)/特・G・D 運推会/各 F 会		手紙:満足度調査発送/来訪・面会(インフルエンザ・ノロウイルス), 特インフルエンザ同意書/インフルエンザ補助申請/特・G・D 運推会/各 F 会(初)/年度福祉サービス目標活動実績経過報告
5	5:端午の節句(たけくらべ弁当) 11,14,17,19,21:防災シミュレーション 22: 総合防災訓練(地震・夜間想定) 25:ミモザパーティー	11	8,12,13,17:防災シミュレーション 15,17,18,21,22,25,27:G もみじ狩り 20,22:特えもみじ狩り(紅葉狩り弁当) 19:総合防災訓練(火災・昼間想定)※消防署立会 22:特えインフルエンザ予防接種 23:ミモザパーティー 24:サークル活動 “カラオケ広場” 30:X'mas ツリー準備
	※排泄バッグ購入		-
6	11:特えほたる狩り 16:G えほたる狩り 19:ミモザイベント 28:ミモザシアター 29:サークル活動 “Lクラフト”	12	1-24:X'mas ツリー点灯 16-22:冬至ゆず風呂 24:X'mas 会※行事食 28:餅つき 30:お飾り付け 31:年越しそば 25:ミモザイベント 17:サークル活動 “えるむシンフォニー”
	手紙:来訪・面会 (食中毒), /特・G・D 運推会/各 F 会		手紙:外泊・食品持込/特・G・D 運推会/各 F 会/手順書 R/長期備蓄食材・備蓄点検
7	7:七夕 7:結核検診 28:土用の丑 20:サークル活動 “カラオケ広場”	1	1-3:おせち料理※行事食 7:七草粥 8:新年会(新春祝御膳) ※行事食 17:特え初詣 18:サークル活動 “書のある暮らし”
	特養介護保険負担限度額認定証確認/介護保険負担割合証確認		手紙:満足度調査返送
8	25:サークル活動 “Lクラフト” 24:えるむシネマ 30:ミモザシアター	2	3:節分(恵方巻き) 20:ミモザパーティー 雑飾り準備
	手紙:敬祝祭案内/特・G・D 運推会/各 F 会/手順書 R		来期事業計画策定/特・G・D 運推会/各 F 会
9	14:サークル活動 “えるむシンフォニー” 20:特え月見 20:ミモザイベント 21:G え月見 21:彼岸(おはぎ) 25:敬祝祭 2021(目で見て楽しむ、食べておいしいえるむ弁当 2021) 28:ミモザパーティー	3	3:ひな祭り 21:彼岸(おはぎ) 26:ミモザシアター 29:サークル活動 “書のある暮らし” 30:ミモザイベント
	-		年度総括/文書(手順書)R/各 F 会(末)

月例行事:みんなの広場, 理美容 [Tanabe・きれい館]

月例イベント食:寿司, セレクトメニュー(月 2 回)

月例業務/会議:記録 R, 体重測定(第 1 週), 備品点検, 監視・測定機器点検(第 2 週), スピーチ(第 3 週), こちえるコメント週間 20-27 日(2 月 20-25 日)
代表者会議※但し、10 月, 2 月, 3 月は 2 回(上半期:年度福祉サービス目標活動実績経過報告・1 月分:事業計画・2 月分:事業報告)開催。

10 月, 2 月末, 3 月末は拡大代表者会議※副 L 出席

ナース会(隔月), ソーシャルワーカー会議, 調理会議, 特養/グループホーム入居選考会議, SQI, ユニットキッチン清掃,

「こちえるむです」発行※1 月年賀

その他:特養/グループホーム誕生日会, サービス担当者会議

部所別研修を次のとおり開催した。

4	24,28:特え “基礎的な介護技術” ※時間外 19:調え “事故/苦情防止” 29:G え “高齢者虐待”	10	18:G え “褥瘡予防” ※会議内 1,2,3,7,19:特え “感染症対策～インフルエンザ, “H1N1”～” 12:調え “高齢者虐待”
5	17:調え “感染症対策～食中毒～” 15,20:G え “高齢者虐待” 21,31:特え “褥瘡予防”	11	10:調え “感染症対策～インフルエンザ・ノロウイルス・コロナウイルス～”
6	14:調え “身体拘束廃止” 14,19:特え “感染症対策” 21,22,28:G え 部所別研修 “感染症対策” 26:G え “身体拘束廃止”	12	29:G:え “身体拘束廃止”
	12:調え “褥瘡予防” 17,26:特え “身体拘束廃止”		9,10: G え “事故/苦情防止” “身体拘束廃止” “褥瘡予防” 21:調え “身体拘束廃止”
7	13,19:G え “身体拘束廃止”	1	6,7,3/4,5.:特え “身体拘束廃止” 12: G え “事故/苦情防止” “身体拘束廃止” “褥瘡予防” 13:G:え “感染症対策”
8		2	8,16:G:え “感染症対策” 28,29,30:G え “認知症ケア” “認知症”
9	15,23: G え “事故/苦情防止” 21,23,24:特え “事故/苦情防止”	3	

えるむ
災害対策年次報告

<活動実績・評価（年度目標達成度）>

1.目標

利用者の安全と施設の財産の保全を図り、常日頃より防災の意識を高めると共に、予防活動、救助活動を実施する。

2.取組・対策

[防災]

- ・総合防災訓練を計画通り年2回実施した。5月は新型コロナウイルス感染症対策として、入居者は避難せずスタッフのみでの避難訓練を実施した。11月の訓練では、一部の入居者のみ避難役になって頂き、訓練に参加して頂いた。
- ・防災訓練シミュレーションは5月に4回、11月に6回実施した。スタッフ全員がシミュレーションに参加できるようにし、訓練を行うことができた。
- ・防火管理者により、防火機器自主点検及び避難経路点検を年2回(5月・9月)に実施した。
- ・旭が丘防災避難訓練はコロナ禍により緊急連絡網の確認のみとなった。えるむにも連絡を入れて頂き、連絡網の確認を行うことができた。

[EMR.mail]

- ・EMR.mail（スタッフ緊急連絡網）については、次の通り管理した。
 - ①各スタッフのMailアドレスの登録，変更については施設事務と協力し管理した。
 - ②毎月1日に時事内容を含めたテストメールを作成，送信した。
 - ③受信できなかったスタッフには個別に対応し確認を行った。
 - ④福知山市に新型コロナウイルス感染症罹患者が発生した時には、EMR.mailを活用し、スタッフに周知，啓発を行った。また、行方不明者捜索情報，積雪による通勤時の注意喚起等、EMR.mailを活用することができた。

[総合防災計画]

- ・「総合防災計画」のレビューを計画通り年2回実施した。
- ・甲種防火管理新規講習への派遣なし。

<来年度への課題>

[防災]

- ・災害時に備えて、総合防災訓練への参加やマニュアルの読み込みをしっかりと行う必要がある。
- ・夜間想定避難訓練では、現場の夜勤者が指示を行えるように動きを見直す必要がある。
- ・災害時用の備蓄品や非常食等の管理を定期的に行う必要がある。

[EMR.mail]

- ・EMR.mailの管理は防火管理者が行っているが、不在時などにも発信できるように体制を整える必要がある。

[総合防災計画]

- ・「総合防災計画」の継続的な見直しを行う必要がある。

＜年間活動実績＞

月	活動内容
4	1:火災通報装置等機器の説明(新入スタッフオリエンテーション) 30:「総合防災計画」レビュー
5	30:防火機器自主点検及び避難経路点検 22:総合防災訓練(避難・通報・消火)〔地震・夜間想定〕※自主訓練 22:防火器具／消防設備点検(指定業者)
8	29:旭が丘防災避難訓練
9	30:防火機器自主点検及び避難経路点検
10	31:「総合防災計画」レビュー
11	19:総合防災訓練(避難・通報・消火)〔火災・昼間想定〕※消防署立会 19:防火器具／消防設備点検(指定業者) ＜秋季火災予防運動＞
3	＜春季火災予防運動＞